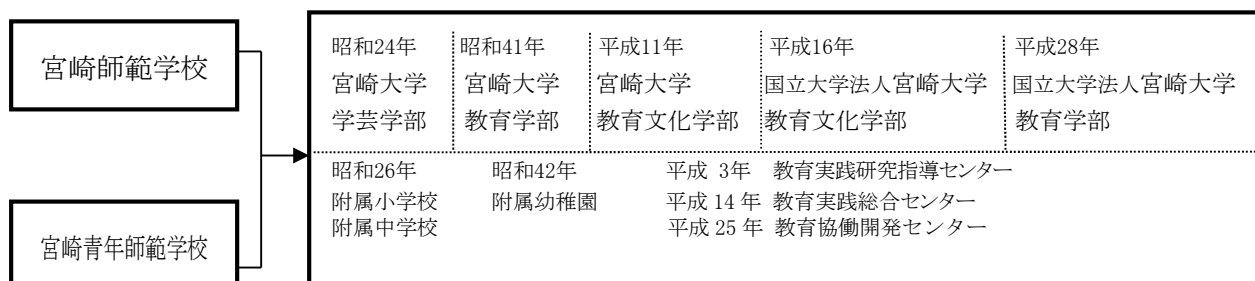


教 育 学 部

1. 教育学部のあらし

【1】教育学部の沿革

本学部は、宮崎師範学校と宮崎青年師範学校を母体として、昭和24年に国立宮崎大学学芸学部として発足した。その後、昭和41年に教育学部と改称、平成11年には教育文化学部へ改組、平成16年4月1日から国立大学法人 宮崎大学教育文化学部へ改組、平成28年4月1日に現在の教育学部となった。（詳細は <https://www.miyazaki-u.ac.jp/edu/faculty/history.html> を参照のこと。）



【2】教育学部の課程・コースと定員

本学部にある課程・コースとそれぞれの入学定員は次のとおりである。

学校教育課程	140名	小中一貫教育コース	105名	小学校主免専攻
				中学校主免専攻
		教職実践基礎コース	15名	教職実践基礎専攻
				発達支援教育コース
特別支援教育専攻				

【3】学生の支援及び指導について

(1) 大学教育支援教員(1年次～2年次)

- ・大学教育支援教員は、入学直後からの学生生活全般を円滑に営むうえでのあらゆる相談(学習上の相談・生活相談・進路相談など)に応じるとともに、1年次前学期に開講される大学教育入門セミナーの主担当教員となる。
- ・大学教育支援教員は、2年次後学期まで継続して学び・学生支援機構、教務・学生支援係、教務委員会、就職委員会等の教員等と密接な連絡をとりながら学生支援の任に当たる。
- ・大学教育支援教員の任期は2年次後学期の3月末日までとする。

(2) 指導教員(3年次～4年次)

- ・学生は各自2年次後学期の1月末日までに卒業論文の指導教員を決める。決定の仕方は、各コース・専攻の「卒業論文の単位修得について」を参照のこと。
- ・指導教員は卒業論文の指導を行うとともに、大学教育支援教員と同様に、学生が学生生活を営むうえでのあらゆる相談(学習上の相談・生活相談・進路相談など)に応じる。指導教員は、学び・学生支援機構、教務・学生支援係、教務委員会、就職委員会等の教員等と密接な連絡をとりながら学生指導の任に当たる。
- ・指導教員の任期は学生が卒業するまでとする。

【4】 学生生活に関係する事務の窓口

(1) 宮崎大学全体の事務の窓口

	窓 口	扱 う こ と が ら
講義棟 教育学部	学び・学生支援機構 教育企画課教養教育係 (1階)	教養教育科目の履修・追試験・再試験に関すること 教養教育科目受講科目登録手続き(Web上で)
	学び・学生支援機構 教育企画課教育企画係	学生証に関すること 受講科目登録手続き(Web上で)
創立330 記念交流会館	学び・学生支援機構共創人材育成課 キャリア支援係 (就職情報資料室)	就職あっせん・就職相談・就職情報の提供
	学び・学生支援機構 学生なんでも相談室	学生支援に関すること 学生生活上のあらゆる相談
	学び・学生支援機構 学生支援課学生支援係	課外活動・諸行事に関すること 学生寄宿舎に関すること 通学証明書の発行 自動車駐車許可証の発行 学内での掲示に関すること
	学び・学生支援機構 学生支援課経済支援係	学生寄宿舎に関すること 奨学金・入学料免除・授業料免除・授業料分納に関すること 経済相談・アルバイトに関すること 傷害保険に関すること
	証明書自動発行機	単位修得証明書・成績証明書・在学証明書・卒業(見込)証明書・学割証・ 健康診断証明書・通学証明書・在寮証明書・保険加入証明書(学研災等)
事務局	財務部財務課 出納係(2階)	授業料の納付(ただし、銀行引き落としが原則)
大学会館	国際連携機構国際連携課 留学交流係(2階)	外国人留学生に関すること 海外留学に関する情報提供
	ハラスメント等相談員 (学内に掲示)	ハラスメントに関すること
	安全衛生保健センター (事務局に隣接)	定期健康診断・臨時健康診断 健康相談・救急措置 精神衛生に関する相談(カウンセリングなど)
	障がい学生支援室	障がい学生の支援に関すること

(2) 教育学部の事務の窓口

	窓 口	扱 う こ と が ら
	教育学部 教務・学生支援係 (実験研究棟1階)	専門科目の履修・試験に関すること 特別欠席に関すること 教員免許などの資格に必要な科目に関すること 教育実習に関すること 時間割・教室配当・教室管理に関すること 就職活動に関すること 学内での掲示に関すること 休学・復学・退学・除籍・再入学・転学・転学部・転コース等に関すること 海外留学に関すること 大学院生・研究生・科目等履修生に関すること 成績についての申し立てに関すること

2. 専門教育科目の受講および試験に関する手続きの一覧表

※令和8年度学年暦に基づくが、変更されることもあるので掲示に注意すること。

学期	項目	提出先	期日	注意すべき点
前学期	受講科目登録	学び・学生支援機構教育企画課 (Web上で)	定める期日まで (掲示板で必ず確認。教養教育科目と専門教育科目で、登録期間が異なる場合があるので注意。)	受講する授業科目のすべてを“Web上で”登録すること。登録しない者には単位の認定をしない。時間割に記載された集中講義についても登録すること。卒業期にある者は、卒業論文についても登録すること。 【注意1】を参照せよ。
	他学部受講願	教務・学生支援係	定める期日まで	他学部の授業を受講するとき。
	教育実習履修届	教務・学生支援係	履修年次の定める期日まで	履修条件を満たしている者だけが履修できる。
	免許状の追加取得に要する教育実習履修届	教務・学生支援係	履修年次の定める期日まで	履修条件を満たしている者だけが履修できる。
	卒業論文題目届	教務・学生支援係	履修年次の5月末日まで	指導教員と確認の上、提出すること。
	特別欠席願	教務・学生支援係	事由発生後2週間以内 (欠席の連絡はすみやかに行うこと)	出席率(75%)の充足について、担当教員により考慮されることがある。
	学修評価期間		7月下旬～8月上旬	【注意2】を参照せよ。
	追試験届	教務・学生支援係	定期試験終了後10日以内	定期試験で特別欠席を許可された者について、定期試験終了後1か月以内に担当教員が適宜実施する。
	学修評価・追試験合否発表		試験終了後1週間以内	Web上で担当教員が発表する。 【注意2】を参照せよ。
後学期	受講科目登録	学び・学生支援機構教育企画課 (Web上で)	定める期日まで (掲示板で必ず確認。教養教育科目と専門教育科目で、登録期間が異なる場合があるので注意。)	受講する授業科目のすべてを“Web上で”登録すること。登録しない者には単位の認定をしない。時間割に記載された集中講義についても登録すること。卒業期にある者は、必要な手続きを行うこと。 【注意1】を参照せよ。
	他学部受講願	教務・学生支援係	定める期日まで	他学部の授業科目で後学期から開講されるもののみ願出すること。
	特別欠席願	教務・学生支援係	事由発生後2週間以内 (欠席の連絡はすみやかに行うこと)	前学期に同じ。
	指導教員届出	教務・学生支援係	12月上旬～1月末日	2年次に提出し、3年次からの指導教員を決定する。
	卒業論文題目届修正期間	教務・学生支援係	12月上旬～1月中旬	提出した題目に変更があれば修正を行うこと。
	卒業論文提出	教務・学生支援係	1月末日午後5時まで	当日が休業日の場合は次の平日の午後5時まで。
	学修評価期間		2月上旬～2月中旬	【注意2】を参照せよ。
	追試験届	教務・学生支援係	定期試験終了後10日以内	前学期に同じ。
	学修評価・追試験合否発表		試験終了後1週間以内	前学期に同じ。 【注意2】を参照せよ。
	特別試験届	教務・学生支援係	定期試験・追試験の合否発表後すみやかに	卒業期にある者で、後学期定期試験で不合格となった専門授業科目3科目の範囲内で卒業所要単位を充足できる者に限り受験できる。
	特別試験		3月11日まで	【注意2】を参照せよ。
	特別試験合否発表		3月12日まで	不合格者は所定の手続きをして、再受講しなければならない。

【注意1】 専門教育科目登録の手順・・・登録期間(確認・修正期間も含む)終了日までに受講科目登録が正しくなされていない場合は、原則として受講科目の単位は認められない。次の点に注意してしっかりと登録すること。

- ① 決められた登録期間内(前学期は春休み期間中、後学期は夏休み期間中になることが多い)にWeb上から受講科目を登録する。登録したあとは、必ず登録完了後の画面を印刷し、各自保管する。
- ② 授業開始後の確認・修正期間内に、自ら登録した科目・自動登録された科目等、全ての科目が登録されているかを必ず確認し、一覧表を印刷して保管する。

【注意2】 詳細については「宮崎大学教育学部専門教育科目の受講及び試験に関する細則」を参照のこと。なお、同細則の第12条に関して、試験におけるカンニング等の不正行為に対しては停学処分その他、当該学期の専門教育科目の試験及びその他レポート等の成績評価はすべて無効となる。

3. 教育学部における教育の特徴

教育学部では、【1】ディプロマ・ポリシーを定め、それを実現するための【2】カリキュラム・ポリシーを定めている。また、それらを実践するための【3】ステージ論に基づく指導を行っている。

【1】ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与に関する方針)

教育学部では、教育に対する強い使命感と教員としての基礎的資質・能力を確実にそなえ、発達段階を見通した広い視野から初等教育、中学校教育、特別支援教育を実践できる人材を養成している。

【2】カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

教育学部のディプロマ・ポリシーを実現するために、各コース・専攻のカリキュラムを編成し、教育を実施する。

【1】、【2】の詳細については、宮崎大学教育学部WEBサイトを参照。

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/edu/faculty/policy.html>



【3】 ステージ論に基づく指導

教育学部の学生にとって、4年間の大学教育の中で、教職についての理解を深め、学習指導や生徒指導等に関する基礎的・基本的な資質能力・実践的指導力を身に着けることは不可欠である。確実にこれらを達成するために、教育職員免許法に基づく開講すべき種々の科目群を、図 3-3-1 に示す 4 つのステージの中にそれぞれ適切に配置する。そして各ステージの到達基準及びその具体的な指標を設定し、きめ細かく達成度を評価できるようにしている。また、各学期のねらいを明確にしてカリキュラムを構成している。

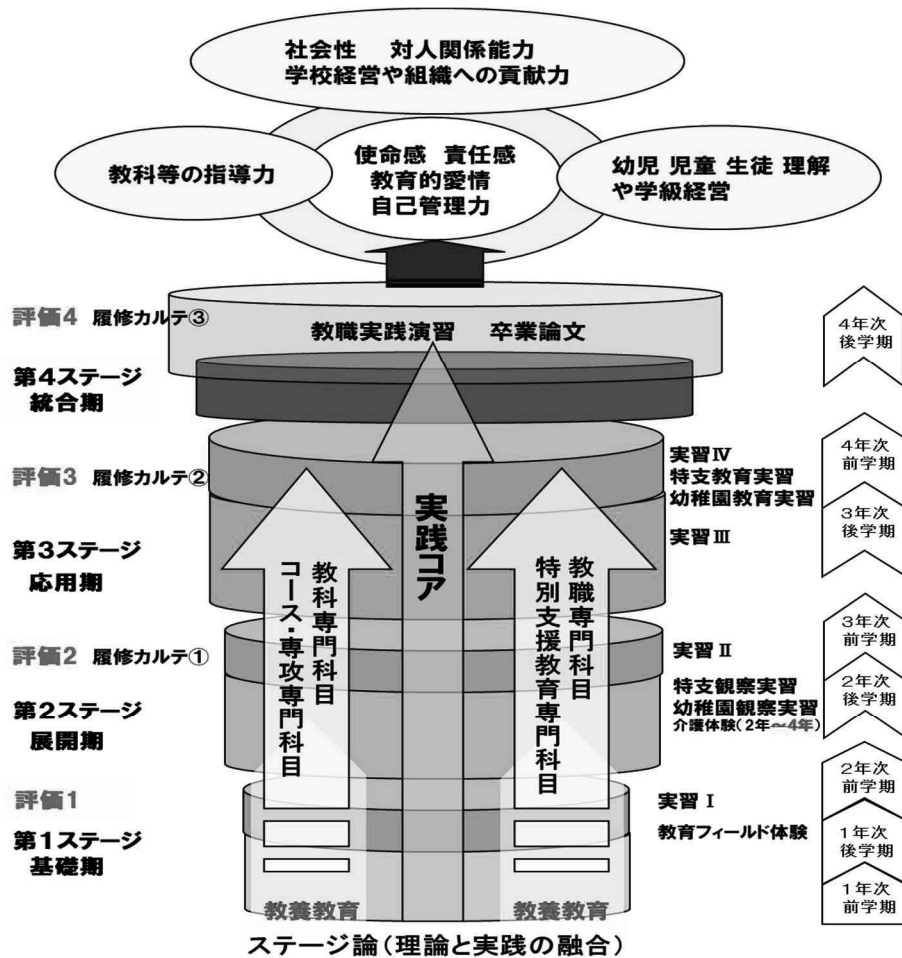


図 3-3-1 ステージ論に基づく指導

【4】 「教職実践演習」と履修カルテについて

「教職実践演習」(4年次・後学期)は、教員免許を取得する全学生の必修科目であり、教師として求められる「使命感や責任感、教育的愛情等」「社会性や対人関係能力」「幼児児童生徒理解や学級経営等」「教科・保育内容等の指導力」に関する事項が授業内容として構成される。本授業には4年間の履修記録となる、教職課程科目を対象とした「履修カルテ」の作成、提出が必須であり、履修カルテ①(第1ステージ基礎期、2年次)、履修カルテ②(第2ステージ展開期、3年次)、履修カルテ③(第3ステージ応用期、第4ステージ統合期、4年次)へと積み上げ、各ステージの履修状況の把握から、課題発見、その課題解決へと進んでいく。

本学では、令和6年度から宮崎の地域活性化を支える多様な「未来共創人材」を育成するための「SPARC未来共創教育プログラム」を実施している。本学部の専門科目においては、令和7年度から「教職実践演習」を「地域課題PBL」科目として位置づけている。

4. カリキュラムの構成

【1】カリキュラム構成の考え方

本学部は、教員養成のための学部で、学校教育課程に小中一貫教育（小学校主免専攻、中学校主免専攻）、教職実践基礎、発達支援教育（子ども理解専攻、特別支援教育専攻）の3コースが置かれている。各コース・専攻のカリキュラムは、教育職員免許法及び同施行規則、介護等体験に関する法律等に基づいて編成され、「教科及び教科の指導法」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「特別支援教育に関する科目」等から構成されている。各コース・専攻とも卒業時まで、専攻の分野を学修し、教員としての教養と専門的能力及び実践的指導力を身につけるためのカリキュラムが準備されている。さらに本学大学院教育学研究科における高度な教員養成と密接な関連を持っている。

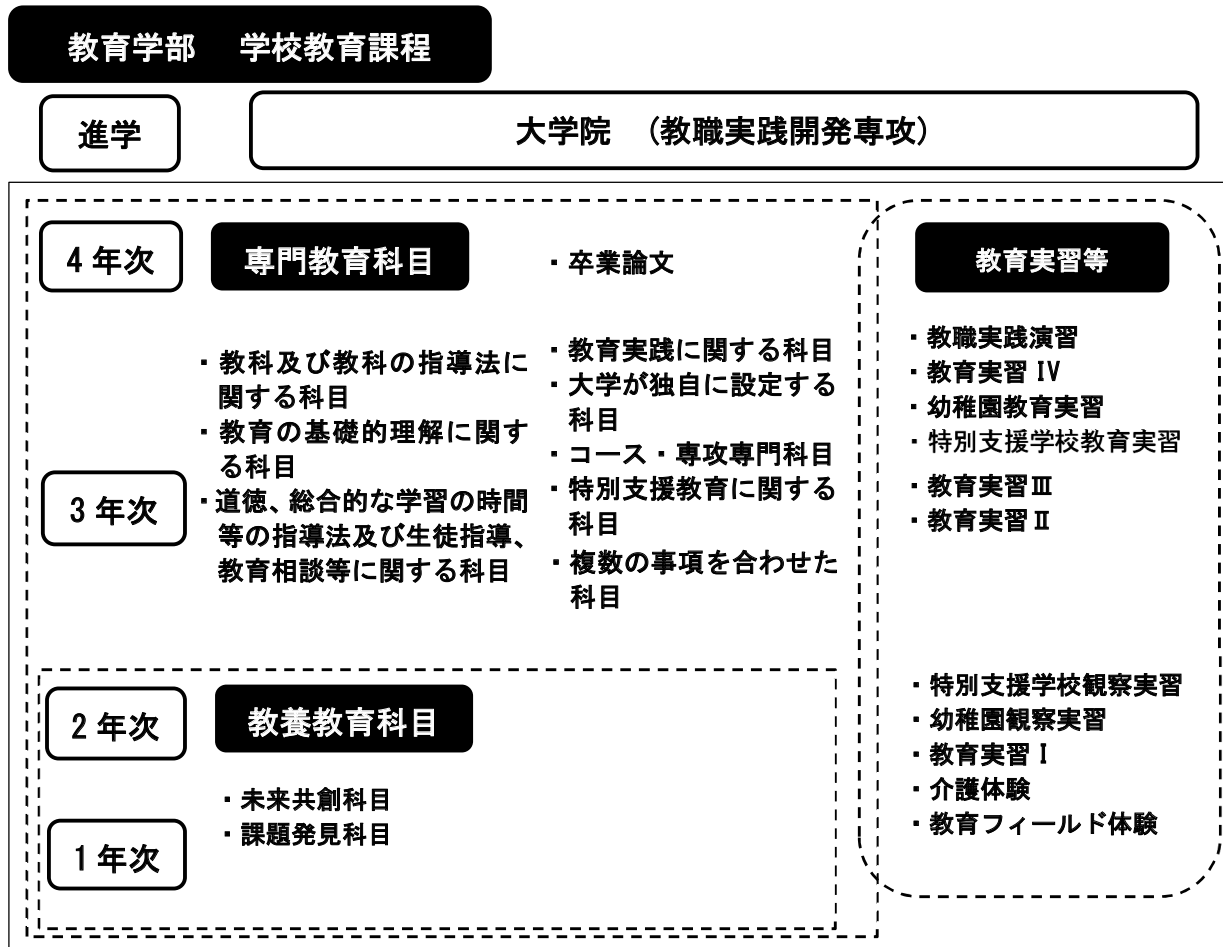


図 4-1-1 本学部のカリキュラムにおける科目構成の概要

【2】「単位」の考え方と GPA について

1 「単位」の考え方

大学を卒業するためには、4年以上在学し、本学部の定めるカリキュラムに従って授業科目を履修し、定められた必要な「単位」数（卒業所要単位数）以上を修得しなければならない。1単位の修得には、45時間の学修を必要とすると定められており、この45時間には授業による学修時間と授業外の学修時間の両方が含まれる。各授業科目における「単位」数と、必要とされる学修時間は、次のように計算される。

表 4-2-1 授業形式単位数及び必要学修時間

		単位修得に必要な学修時間	
授業形式	単位数	授業時間	授業外の学修時間
講義、演習、実験、 実習若しくは実技の いずれかにより又は これらの併用による	1 単位	おおむね 15～45 時間	30～0 時間

※1 単位計算上の授業「1 時間」は、実際の授業時間として 45 分をあてる。

※2 通常、授業時間「2 時間」を 1 コマとして設定される。

表 4-2-1 が示すとおり、単位の修得には授業形態に関わらず、予習及び復習による授業時間外の学修を必要とする。したがって、単純により多くの単位の修得を目的とするのではなく、単位制度の主旨に従って、各科目の授業に真剣に取り組むことに加え、授業時間外での学修にも取り組み、より実質的な学修を行うことが求められる。なお卒業所要単位（通常授業時間外に開講される集中講義、体験学習、教育実習関係、卒業論文等の科目を除く）に関しては、各年次に履修登録できる単位数の上限の目安を定めている。1 年次から 3 年次は前学期・後学期、それぞれ 25 単位、4 年次においては同じく、それぞれ 20 単位である。

2 成績評価と GPA について

教育学部では、学部及び各コース・専攻の学修教育目標を実現するための学修支援システムの一環として、GPA 制度を導入している。以下にこの制度について概説する。

2-1 成績評価

授業の成績の評価は、レポート等も含めた多様な評価を行い、100 点満点で 60 点以上を合格とし、59 点以下は不合格とする（宮崎大学教育学部専門教育科目の受講及び試験に関する細則を参照）。またこの成績は下記のように、授業を担当するそれぞれの教員が定める科目到達目標により、秀、優、良、可、不可の評語を用いて評価される。

秀：科目の到達目標に特に優秀な水準で達している（評点：90 点以上）

優：科目の到達目標に優秀な水準で達している（評点：80 点以上）

良：科目の到達目標に良好な水準で達している（評点：70 点以上）

可：科目の到達目標に必要最小限の水準で達している（評点：60 点以上）

不可：科目の到達目標の必要最小限の水準に達していない（評点：59 点以下）

2-2 GPA とは何か

GPA (Grade Point Average: 成績指標値) とは、簡単には各学生の成績の平均点を表すもので、学生が履修した科目の評点に、各科目に対して単位数の重み付けを行い、これを平均化したものである。単位数の重み付けとは、“単位の実質化”の観点に基づき、4 単位科目は、2 単位科目の 2 倍の学修が求められるとの考えから、その成績に 2 倍の重みを与えるものである。本学部では「各学期の GPA」と入学時からの累積成績の「累積 GPA」の 2 つの GPA を設定している。

2-3 GPA 制度の目的と利用

GPA は、学部・課程の教育目標を実現するための厳格な成績評価システムを構成するものの一つである。以下に示すように、学期毎に計算されるため、自身の成績の伸びや学修状況などの変化を客観的に判断することができる。また学修の到達度を数値的に明確にできるため、自身の授業への取り組み・学修意欲の向上、また教員の学修指導への情報提供といった、学修支援ツールとしての役割を持つ。また GPA は以下に示す学生表彰にも利用される。

教育学部では、成績優秀者及び研究・サークル活動等の諸活動で顕著な活躍をした者等に、「木犀大賞」、「木犀賞」を授与している。成績優秀者は、GPA を利用して選出される。

2-4 GPA の計算方法

本学で利用する GPA の計算式は以下の通りであり、「履修登録科目」のすべてが対象科目である。

$$\text{GPA} = \Sigma [\text{GP} \times \text{科目の単位数}] / (\text{全履修科目の単位数の合計})$$

$$\text{ただし、GP} = (\text{受講科目の 100 点満点の評価点} - 54.5) / 10$$

Σは、各学期または累積の受講科目に関する合計を示す。

また、60 点未満の不合格科目では、GP=0 とする。

表 4-2-2 GPA の計算例

科目名	単位数	成績	評価点	GP	GP×科目単位数
△△学	2	優	85	$(85-54.5) / 10 = 3.05$	$3.05 \times 2 = 6.10$
〇〇学	2	不可	51	0	$0 \times 2 = 0$
□□実験	1	可	68	$(68-54.5) / 10 = 1.35$	$1.35 \times 1 = 1.35$
**研究	4	良	72	$(72-54.5) / 10 = 1.75$	$1.75 \times 4 = 7.00$
※※論	2	秀	95	$(95-54.5) / 10 = 4.05$	$4.05 \times 2 = 8.10$
合計	11	-	-	-	22.55

$$\text{GPA} = 22.55 / 11 = 2.05 \text{ (小数第 3 位以下を切り捨て)}$$

学期毎の GPA は、各学期で履修登録した全科目が、累積 GPA は入学以降に履修登録した全科目が対象となる。したがって、履修登録はしたものの実際に受講しなかった科目については、評価が不合格となり、GP=0 として計算に用いられる。そのため、履修登録は行ったものの、その後、履修を中止にした場合には、必ず指定された科目登録の修正期間内に登録を削除しなければならない。ただし、集中講義などの講義日程が修正期間内に決定されていないものの中止については、講義日程確定後、直ちに教育学部教務・学生支援係にて手続きを行うこと。いずれにしても、無計画な履修登録は自身の GPA を引き下げることとなるので、十分に注意すること。

【3】各コースにおける専攻の種類と取得する教育職員(教員)免許状

各コース・専攻では、卒業要件にしたがって取得する教員免許状の種類が決まる。各コース・専攻において取得する免許種は次の通りである。

A 小中一貫教育コース

小学校主免専攻

小学校主免専攻(小主免専攻)では、小学校教諭1種免許を取得する。併せて、「各教科(国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語)」からいずれか1つを専修とし、専修とした教科の中学校教諭2種免許を取得する。専修については、以下の方針に従って決定する。

- ① 入学直後に実施される専修選択に関するガイダンスをうけ、自身の専修を決定し、専修届をコース長宛てに提出する。この専修の授業科目を1年次前学期から履修する。なお専修とする教科の選択においては、大学教育支援教員とよく相談すること。ただし、各専修に受入上限の定数があるため希望する専修を選択できない場合がある。
- ② 専修選択に関するガイダンス終了時までには自身の専修を明確にできなかった者は、①で届け出た専修の他に希望する専修の授業科目(ただし、1年次前学期の担当科目)を受講し、最終的に1年次前学期の終わりまでに1つの専修を選択する。この時、①で届け出た専修と異なる専修を選択する場合は、専修異動届をコース長宛てに提出すること。複数の専修の授業科目を受講する場合には、必ず①で届け出た専修及び他に希望する専修の大学教育支援教員とよく相談し、受講科目等を選択すること。
- ③ 1年次後学期以降における専修の変更は「宮崎大学教育学部コース、専攻及び専修変更に関する選考内規」に則る。

中学校主免専攻

中学校主免専攻(中主免専攻)では、「各教科(国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、家庭、英語)」からいずれか1つを専修とし、専修とした教科の中学校教諭1種免許を取得する。併せて、小学校教諭2種免許を取得する。専修については、出願時に選択した教科を専修とし、その専修の授業科目を1年次前学期から履修する。

B 教職実践基礎コース

教職実践基礎専攻の1専攻である。小学校教諭1種免許を取得する。

C 発達支援教育コース

子ども理解専攻

子ども理解専攻では、小学校教諭1種免許及び幼稚園教諭1種免許を取得する。

特別支援教育専攻

特別支援教育専攻では、小学校教諭1種免許及び特別支援学校教諭1種免許を取得する。なお、本学で取得することのできる特別支援学校教諭1種免許の領域は、知的障害者・肢体不自由者・病弱者に関する領域である。(※以後領域については、「知的障害・肢体不自由・病弱」と表示する。)

【4】履修基準

各コース・専攻において、卒業に必要な単位修得における履修基準は以下のとおりである。

表 4-4-1 各コース・専攻における履修基準（卒業所要単位数）

コース・専攻 科目		小中一貫教育コース		教職実践 基礎コース	発達支援教育コース	
		小主免専攻	中主免専攻	教職実践 基礎専攻	子ども理解 専攻	特別支援 教育専攻
教養教育科目		36	36	36	36	36
専 門 教 育 科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校免許用)	40	16	40	34	32
	(中学校免許用)	18	40			
	教育の基礎的理解に関する科目	10	10	10	8	10
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法 及び生徒指導、教育相談等に関する科目	11	11	11	11	11
	教育実践に関する科目	11	11	10	7	7
	大学が独自に設定する科目	4	6	4	4	4
	コース・専攻専門科目	3	3	22	33	2
	特別支援教育に関する科目					31
	卒業論文	4	4	4	4	4
計		137	137	137	137	137

【5】免許法等に係る教養教育科目の履修について

教養教育科目については全学共通となっているので、前記 57 ページ～68 ページを参照すること。
教育学部の学生は、免許法（「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6」による）等に従い以下の 14 単位を含む計 36 単位以上を修得すること。

- ・ 導入科目に属する情報・データリテラシー科目群の「情報・データリテラシー(2 単位)」。
- ・ 導入科目に属する英語(外国語コミュニケーションを含む)科目群の「英語 Ec1・2(計 2 単位)」。
- ・ 導入科目に属する専門接続系科目群の「スポーツ科学 I・II(計 2 単位)」、「教職入門(2 単位)」、「特別支援教育入門(2 単位)」、「教職キャリア教育(2 単位)」、「日本国憲法(2 単位)」。

【6】 専門教育科目の履修について

※専門教育科目は、配当年次で指定された年次・学期またはそれ以降に履修しなければならない。

表 4-4-1 の専門教育科目については、開講されている授業科目、その単位数、配当年次、授業担当教員が、【7】 専門教育科目表に、コース及び専攻別に分類番号（以下、「分類」と呼ぶ）とともに示されている。履修に際しては次の点に留意すること。

小中一貫教育コース 小学校主免専攻

1 「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位修得について

以下のように計 58 単位を修得する。

- (1-1) 分類 1 の「教科に関する専門的事項」から、単位数に○印を付した科目をすべて履修し、20 単位を修得する。
- (1-2) 分類 1 の「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」から、単位数に○印を付した科目をすべて履修し、20 単位を修得する。
- (1-3) 各自が専修とする教科の専門科目表（小主免専攻（技術専修）専門科目・中主免専攻専門科目：分類 3～12）の「教科に関する専門的事項」から★印を付した科目のすべてを含めて計 14 単位を修得する。
- (1-4) 各自が専修とする教科の専門科目表（小主免専攻（技術専修）専門科目・中主免専攻専門科目：分類 3～12）の「教科の指導法に関する科目」から★印を付した科目のすべてを含めて計 4 単位を修得する。

2 「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の単位修得について

以下のように計 32 単位を修得する。

- (2-1) 分類 2 の科目区分 B 「教育の基礎的理解に関する科目」をすべて履修し 10 単位を修得する。
- (2-2) 分類 2 の科目区分 B 「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」をすべて履修し 11 単位を修得する。
- (2-3) 分類 2 の科目区分 B 「教育実践に関する科目」をすべて履修し 10 単位を修得する。
- (2-4) 分類 13 の科目区分 B 「教育実践に関する科目」のうち★印を付した「教育実習基礎研究（中高）」1 単位を修得する。

3 「大学が独自に設定する科目」の単位修得について

分類 18 の科目区分 A 「課程共通必修科目」の「介護体験」、「教育フィールド体験」及び、「人権同和教育」を履修し 4 単位を修得する。ただし、「教育フィールド体験」については、「小規模校等コース」を選択することはできない。

4 専攻専門科目の単位修得について

以下の科目の中から3単位修得する。

- (4-1) 各自が専修とする教科の専門科目表（分類3～12）から、(1-4)で選んだ科目と重ならない「教科に関する専門的事項」及び「大学が独自に設定する科目」の科目。
- (4-2) 分類18の科目区分Aの「課程共通選択科目」の科目。これらの単位は、小学校教諭免許もしくは中学校教諭免許の「大学が独自に設定する科目」の単位として認定される。

5 卒業論文の単位修得について

「卒業論文」については、以下のように4単位を修得する。

- (5-1) 卒業論文の単位修得にあたっては、自身と同じ専修の担当（「8. 教職員名簿」参照）から指導教員を選び、その指導のもとに卒業論文（作品）を作成すること。ただし、事情によっては、関係する教員の協議と教務委員会の了承を経て、上記以外の教員を指導教員として選ぶことが認められる場合がある。
- (5-2) 2年次の1月末日までに指導教員届を教務・学生支援係に提出する。
- (5-3) 受講科目の登録は4年次前学期に行う。
- (5-4) 4年次の5月末日までに卒業論文題目届を教務・学生支援係に提出する。
- (5-5) 卒業論文の提出期限は1月末日午後5時、当日が休業日の場合は次の平日の午後5時までとし、教務・学生支援係に提出する。
- (5-6) 卒業論文の審査にあたっては、試問等が行われることがある。

小中一貫教育コース 中学校主免専攻

1 「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位修得について

以下のように計 56 単位を修得する。

- (1-1) 各自が専修とする教科の専門科目表（中主免専攻専門科目：分類 4～12）の「教科に関する専門的事項」から、単位数に○印を付した科目のすべてを含む 30 単位を修得する。
- (1-2) 各自が専修とする教科の専門科目表（中主免専攻専門科目：分類 4～12）の「教科の指導法に関する科目」から、単位数に○印を付した科目をすべて履修し計 8 単位を修得する。
- (1-3) 各自が専修とする教科の専門科目表（中主免専攻専門科目：分類 4～12）の「教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目」の 2 単位を修得する。
- (1-4) 分類 1 の「教科に関する専門的事項」の★印を付した科目を 2 科目選択し 4 単位修得する。
- (1-5) 分類 1 の「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」の★印を付した科目のうち 6 教科（ただし、「音楽」・「図工」・「体育」から 2 教科を必ず含める）を選択し、それぞれ 2 単位、計 12 単位を修得する。

2 「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の単位修得について

以下のように計 32 単位を修得する。

- (2-1) 分類 13 の科目区分 B 「教育の基礎的理解に関する科目」をすべて履修し 8 単位を修得する。
- (2-2) 分類 13 の科目区分 B 「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」をすべて履修し 11 単位を修得する。
- (2-3) 分類 13 の科目区分 B 「教育実践に関する科目」をすべて履修し 10 単位を修得する。
- (2-4) 分類 2 の井印を付した「小中一貫教育の理論と実践」、「教育実習基礎研究（幼小）」を履修し 3 単位を修得する。

3 「大学が独自に設定する科目」の単位修得について

以下のように計 6 単位を修得する。

- (3-1) 分類 18 の科目区分 A 「課程共通必修科目」の「介護体験」、「教育フィールド体験」及び、「人権同和教育」を履修し 4 単位を修得する。ただし、「教育フィールド体験」については、「小規模校等コース」を選択することはできない。
- (3-2) 分類 3～12 の科目区分 B の「大学が独自に設定する科目」から各自が専修とする教科を選択し 2 単位を修得する。

4 専攻専門科目の単位修得について

以下の科目の中から3単位修得する。

- (4-1) 各自が専修とする教科の専門科目表（分類4～12）から、(1-1)で選んだ科目と重ならない「教科に関する専門的事項」の科目。これらの単位は、中学校教諭免許の「大学が独自に設定する科目」の単位として認定される。
- (4-2) 分類1の★印を付した科目から、(1-4)で選んだ科目と重ならない「教科に関する専門的事項」の科目。これらの単位は、小学校教諭免許の「教科に関する専門的事項」の単位として認定される。
- (4-3) 分類1の★印を付した科目から、(1-5)で選んだ科目と重ならない「教科の指導法に関する科目」の科目。これらの単位は、小学校教諭免許の「教科の指導法に関する科目」の単位として認定される。
- (4-4) 分類18の科目区分Aの「課程共通選択科目」の科目。これらの単位は、小学校教諭免許もしくは中学校教諭免許の「大学が独自に設定する科目」の単位として認定される。

5 卒業論文の単位修得について

「卒業論文」については、以下のように4単位を修得する。

- (5-1) 卒業論文の単位修得にあたっては、自身と同じ専修の担当（「8. 教職員名簿」参照）から指導教員を選び、その指導のもとに卒業論文（作品）を作成すること。ただし、事情によっては、関係する教員の協議と教務委員会の了承を経て、上記以外の教員を指導教員として選ぶことが認められる場合がある。
- (5-2) 2年次の1月末日までに指導教員届を教務・学生支援係に提出する。
- (5-3) 受講科目の登録は4年次前学期に行う。
- (5-4) 4年次の5月末日までに卒業論文題目届を教務・学生支援係に提出する。
- (5-5) 卒業論文の提出期限は1月末日午後5時、当日が休業日の場合は次の平日の午後5時までとし、教務・学生支援係に提出する。
- (5-6) 卒業論文の審査にあたっては、試問等が行われることがある。

教職実践基礎コース 教職実践基礎専攻

1 「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位修得について

以下のように計 40 単位を修得する。

- (1-1) 分類 1 の「教科に関する専門的事項」から、単位数に○印を付した科目をすべて履修し、20 単位を修得する。
- (1-2) 分類 1 の「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」から、単位数に○印を付した科目をすべて履修し、20 単位を修得する。

2 「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の単位修得について

以下のように計 31 単位を修得する。

- (2-1) 分類 2 の科目区分 B 「教育の基礎的理解に関する科目」をすべて履修し 10 単位を修得する。
- (2-2) 分類 2 の科目区分 B 「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」をすべて履修し 11 単位を修得する。
- (2-3) 分類 2 の科目区分 B 「教育実践に関する科目」をすべて履修し 10 単位を修得する。

3 「大学が独自に設定する科目」の単位修得について

分類 18 の科目区分 A 「課程共通必修科目」の「介護体験」、「教育フィールド体験 小規模校等コース」、「人権同和教育」を履修し 4 単位を修得する。

4 コース・専攻専門科目の単位修得について

分類 14 から単位数に○印を付した必修科目すべてを含めて計 22 単位を修得する。

5 卒業論文の単位修得について

「卒業論文」については、以下のように 4 単位を修得する。

- (5-1) 卒業論文の単位修得にあたっては、教職実践基礎コース担当（「8. 教職員名簿」参照）から指導教員を選び、その指導のもとに卒業論文を作成すること。ただし、事情によっては、関係する教員の協議と教務委員会の上記以外を指導教員として選ぶことが認められる場合がある。
- (5-2) 2 年次の 1 月末日までに指導教員届を教務・学生支援係に提出する。
- (5-3) 受講科目の登録は 4 年次前学期に行う。
- (5-4) 4 年次の 5 月末日までに卒業論文題目届を教務・学生支援係に提出する。
- (5-5) 卒業論文の提出期限は 1 月末日午後 5 時、当日が休業日の場合は次の平日の午後 5 時までとし、教務・学生支援係に提出する。
- (5-6) 卒業論文の審査にあたっては、試問等が行われることがある。

発達支援教育コース 子ども理解専攻

1 「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位修得について

以下のように計 34 単位を修得する。

- (1-1) 分類 1 の「教科に関する専門的事項」の★印を付した科目を 7 科目選択し、計 14 単位を修得する。
- (1-2) 分類 1 の「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」から、単位数に○印を付した科目をすべて履修し、20 単位を修得する。

2 「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の単位修得について

以下のように計 26 単位を修得する。

- (2-1) 分類 2 の科目区分 B 「教育の基礎的理解に関する科目」から「小中一貫教育の理論と実践」以外のすべてを履修し 8 単位を修得する。
- (2-2) 分類 2 の科目区分 B 「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」をすべて履修し 11 単位を修得する。
- (2-3) 分類 2 の科目区分 B 「教育実践に関する科目」から「教育実習Ⅲ」、「教育実習Ⅳ」以外のすべてを履修し、7 単位を修得する。（なお「教育実習Ⅳ」を履修する場合がある。（4-4）参照。）

3 「大学が独自に設定する科目」の単位修得について

分類 18 の科目区分 A 「課程共通必修科目」の「介護体験」、「教育フィールド体験」及び、「人権同和教育」を履修し 4 単位を修得する。ただし、「教育フィールド体験」については、「小規模校等コース」を選択することはできない。

4 コース・専攻専門科目の単位修得について

以下のように計 33 単位を修得する。

- (4-1) 分類 15 の「子どもの発達と教育支援」を 2 単位修得する。
- (4-2) 分類 16 の科目区分 B 「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「大学が独自に設定する科目」の科目から○印を付した科目すべてを含めて計 10 単位を修得する。
- (4-3) 分類 16 の科目区分 B 「幼稚園教育」の「領域に関する専門的事項」、「保育内容の指導法」の○印を付したすべての科目と「幼児の理解と教育相談」の合計 18 単位を修得する。
- (4-4) 分類 16 の「幼稚園観察実習」の 1 単位、及び分類 16 の「幼稚園教育実習」もしくは分類 2 の「教育実習Ⅳ」のいずれかを選択し 2 単位を修得する。

5 卒業論文の単位修得について

「卒業論文」については、以下のように4単位を修得する。

- (5-1) 卒業論文の単位修得にあたっては、発達支援教育コース子ども理解専攻担当（「8. 教職員名簿」参照）から指導教員を選び、その指導のもとに卒業論文を作成すること。ただし、事情によっては、関係する教員の協議と教務委員会の了承を経て、上記以外の教員を指導教員として選ぶことが認められる場合がある。
- (5-2) 2年次の1月末日までに指導教員届を教務・学生支援係に提出する。
- (5-3) 受講科目の登録は4年次前学期に行う。
- (5-4) 4年次の5月末日までに卒業論文題目届を教務・学生支援係に提出する。
- (5-5) 卒業論文の提出期限は1月末日午後5時、当日が休業日の場合は次の平日の午後5時までとし、教務・学生支援係に提出する。
- (5-6) 卒業論文の審査にあたっては、試問等が行われることがある。

発達支援教育コース 特別支援教育専攻

1 「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位修得について

以下のように計 32 単位を修得する。

- (1-1) 分類 1 の「教科に関する専門的事項」の★印を付した科目を 6 科目選択し、計 12 単位を修得する。
- (1-2) 分類 1 の「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」から、単位数に○印を付した科目をすべて履修し、20 単位を修得する。

2 「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の単位修得について

以下のように計 28 単位を修得する。

- (2-1) 分類 2 の科目区分 B 「教育の基礎的理解に関する科目」をすべて履修し 10 単位を修得する。
- (2-2) 分類 2 の科目区分 B 「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」をすべて履修し 11 単位を修得する。
- (2-3) 分類 2 の科目区分 B 「教育実践に関する科目」から「教育実習Ⅲ」、「教育実習Ⅳ」以外のすべてを履修し、7 単位を修得する。

3 「大学が独自に設定する科目」の単位修得について

分類 18 の科目区分 A 「課程共通必修科目」の「介護体験」、「教育フィールド体験」及び、「人権同和教育」を履修し 4 単位を修得する。ただし、「教育フィールド体験」については、「小規模校等コース」を選択することはできない。

4 コース科目及び専攻科目（特別支援教育に関する科目）の単位修得について

以下のように計 33 単位を修得する。

- (4-1) 分類 15 の「子どもの発達と教育支援」を 2 単位修得する。
- (4-2) 分類 17 から単位数に○印を付した科目のすべてを含めて計 31 単位を修得する。

5 卒業論文の単位修得について

「卒業論文」については、以下のように 4 単位を修得する

- (5-1) 卒業論文の単位修得にあたっては、発達支援教育コース特別支援教育専攻担当（「8. 教職員名簿」参照）から指導教員を選び、その指導のもとに卒業論文を作成すること。ただし、事情によっては、関係する教員の協議と教務委員会の了承を経て、上記以外の教員を指導教員として選ぶことが認められる場合がある。
- (5-2) 2 年次の 1 月末日までに指導教員届を教務・学生支援係に提出する。
- (5-3) 受講科目の登録は 4 年次前学期に行う。
- (5-4) 4 年次の 5 月末日までに卒業論文題目届を教務・学生支援係に提出する。
- (5-5) 卒業論文の提出期限は 1 月末日午後 5 時、当日が休業日の場合は次の平日の午後 5 時までとし、教務・学生支援係に提出する。
- (5-6) 卒業論文の審査にあたっては、試問等が行われることがある。

【7】専門教育科目表

次ページ以降に開講されている専門の授業科目、その単位数、配当年次、授業担当教員について、コース及び専攻別に示されている。履修に際しては次の点に留意すること。

- 1) 科目表の単位欄の「必修」・「選択」は該当コースを専攻とする者にとっての区別である。単位欄及び各配当年次欄の単位数に○印がついている授業科目は必修である。
- 2) 授業科目の★印及び#印は主に2種免許取得に必要な科目を表す。◆印の科目は高等学校教諭免許状の取得に関係する科目であり、中学校教諭免許状取得に必要な単位としては算定しない。履修方法については「【6】専門教育科目の履修について」を参照すること。
- 3) 科目表の区別欄の「コ」「エ」「ジ」は、それぞれ講義、演習、実験あるいは実習の授業形態を示す。
- 4) 同一の授業科目で、同一年次の前学期、後学期に各2単位ずつ（あるいは1単位ずつ）分けて開講されている科目については、前学期、後学期の順に履修することを原則とする。

専門科目表内にある「関連能力」と記載された列には、各授業科目が以下の表に示すどの能力と関係するかを記号で表している。各項目の詳細については「3. 教育学部における教育の特徴【1】ディプロマ・ポリシー」を参照せよ。

記号	中項目	記号	中項目
A	使命感・倫理観	I	総合的な教育実践力
B	チームワーク	J	(専門知識・理解・技能) 教育の基礎理論に関する知識
C	個と多様性の尊重		
D	主体的に学ぶ力	K	(専門知識・理解・技能) 教科等の内容に関する知識・技能
E	児童・生徒理解		
F	生徒指導・学級経営	L	(専門知識・理解・技能) 教科等の指導法に関する知識・実践力
G	情報リテラシー		
H	課題解決力		

専門科目表内にある「教育方法」と記載された列には、各授業科目が以下の表に示すどの教育方法を取り入れているかを数字で表している。なお、記載された教育方法は、毎回の授業に取り入れられているものに限らず、一部の授業のみに取り入れられているものも含む。また、教育方法の種類や授業への取り入れられ方は、今後の見直しなどにより、変更されることがある。

記号	項目
1	少人数（10人程度）
2	双方向（対話・討論）
3	グループワーク
4	フィールド型
5	メディア活用
6	TA活用

小中一貫教育コース 小主免専攻専門科目(小学校免許取得関連科目)

分類	科目区分			記号	授業科目	区別	単位		配当年次	1年次		2年次		3年次		4年次		主な関連能力	教育方法	担当教員					
	A	B	C				必修	選択		前	後	前	後	前	後	前	後								
1	小学校教育専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目	★	国語(書写を含む。)	コ	②			1後	②									K	3,5	山元・塚本・中村(佳)・中野大平・中堀・柏葉・松尾・植木・相馬				
				社会	コ	②					2前		②								K	5	山口(尚)・向江・平山・添田		
				算数	コ	②					2前		②								K	5	下村・有井・西田・隈		
				理科	コ	②					2後			②							K	2,3,4	生活科運営委員会		
				生活	コ	②					2後			②							K	2,3,4	阪本・藤本(い)・浦		
				音楽	コ	②					2前		②								K	2,3	大泉・大野		
				図工	コ	②					1前	②									K	2	藤本(明)・瀧元		
				体育	コ	②					2後			②							K	2,3	本多 正敏		
				家庭	コ	②					2後			②							K	5	中野・李		
				小学校英語	コ	②					2前		②								K	2,3	中野・李		
				★	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	★	初等国語科教育法Ⅰ	工	①				2後			①							L	2,3	吉村・藤本(将)
							初等国語科教育法Ⅱ	工	①				3全					①					L	2,3	吉村・藤本(将)
							初等社会科教育法Ⅰ	工	①				2後			①							L	2,6	添田・木根
							初等社会科教育法Ⅱ	工	①				3全					①					L	2,6	添田・木根
		算数科教育法Ⅰ	工				①				2後			①							L	2,3,5	教育学部所属教員・野添・中村(大)		
		算数科教育法Ⅱ	工				①				3全					①					L	2,3,5	中村(大)・野添・教育学部所属教員		
		初等理科教育法Ⅰ	工				①				3前				①						L	2,3,5,6	生活科運営委員会		
		初等理科教育法Ⅱ	工				①				3後						①				L	2,3,5,6	酒井・菅		
		生活科教育法	コ				②				2前			②								L	2,3,5	酒井・菅	
		初等音楽科教育法Ⅰ	工				①				3前					①						L	2,3,5	榊島・幸	
		初等音楽科教育法Ⅱ	工				①				3後						①					L	2,3,5	榊島・幸	
		図工科教育法Ⅰ	工				①				2後				①							L	2,3,5	日高・佐々	
		図工科教育法Ⅱ	工				①				3全						①					L	2,3,5	日高・佐々	
		体育科教育法Ⅰ	工				①				3前					①						L	3,5	伊波・瀧元	
		体育科教育法Ⅱ	工	①				3後						①					L	3,5	伊波・瀧元				
		初等家庭科教育法Ⅰ	工	①				3前					①						L	2,3,4,5	興津・早瀬				
		初等家庭科教育法Ⅱ	工	①				3後						①					L	2,3,5	興津・早瀬				
		初等英語教育法Ⅰ	工	①				3前					①						L	2,3,5					
初等英語教育法Ⅱ	工	①				3後						①					L	2,3,5							
修得すべき単位数							40																		
2	小学校教育専門科目	教育の基礎的理解に	★	教育の理念	コ	②			1前	②									J	2	深見 奨平				
				心身の発達	☆	コ	②			2前		②								E	2,3,5	尾之上 高哉			
				教育制度	コ	②				1後		②								J	5	湯田 拓史			
				教育課程	教育課程論	コ	②				1後		②								L	2,3,5	遠藤 宏美		
		#	小中一貫教育の理論と実践		コ	②				3後					②				L	2,3,5	遠藤・深見・吉村・添田・野添・酒井・幸・佐々・伊波・藤本(将)・李・興津・教育学部所属教員				
		の指導、総合的な学習の時間等に関する科目	★	道徳の理論	コ	②				3前			②							L	2,3	椋木 香子			
				総合的な学習	コ	①				3後					①				L	2,3,5	吉村・遠藤				
				特別活動	コ	②				2後			②						F	2,3,5	盛満 弥生				
				教育の方法	コ	②				2後			②						L	2,5,6	竹内・小林・新地				
		教育実習	★	生徒指導	コ	②				3後					②				F	2,3	教育学部所属教員				
				教育相談	コ	②				2後			②						F	2	境 泉洋				
				教育実習Ⅰ	ジ	①				2前			①						I	2,3,4	教育実習運営委員会				
				教育実習Ⅱ	ジ	③				3前				③					I	2,3,4	教育実習運営委員会				
		教職実践演習	★	教育実習Ⅲ	ジ	①				3後					①				I	2,3,4	教育実習運営委員会				
教育実習Ⅳ	ジ			②				4前					②				I	2,3,4	教育実習運営委員会						
#	教育実習基礎研究(幼小)			ジ	①			3全					①				I	2,3,6	竹内 元						
教職実践演習(幼小中高)(SPARC科目)	工			②				4後						②		D,H	2,3,4	学校教育課程全教員							
修得すべき単位数							31																		

- * 中主免専攻は分類1「教科に関する専門的事項」の★印を付した科目を2科目選択し4単位修得する。
- * 中主免専攻は分類1「各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)」の★印を付した科目のうち6教科(ただし、「音楽」・「図工」・「体育」の中の2教科を必ず含める)を選択し、それぞれ2単位、計12単位を修得する。
- * 中主免専攻は分類2の#印を付した「小中一貫教育の理論と実践」「教育実習基礎研究(幼小)」を必修とし、3単位を修得する。
- * 科目の担当教員は変更になる可能性がある。
- ※ 准学校心理士の資格を取得する場合、☆印を付した科目を履修すること。

小中一貫教育コース 小主免専攻(技術専修)専門科目

分類	科目区分			記号	授業科目	区別	単位		配当年次	1年次		2年次		3年次		4年次		主な 関連能力	教育 方法	担当教員		
	A	B	C				必修	選択		前	後	前	後	前	後	前	後					
3 小中一貫教育コース(技術科)専門科目	教科に関する専門的事項	材料加工 (実習を含む。)	★	木材加工学概論 (実習を含む。)	工	②		1後		②								K	1,2	教育学部所属教員		
			★	金属加工法 (実習を含む。)	コ	②		2前			②								K	1,2	教育学部所属教員	
				加工システム実習 (工学部 開講科目)	ジ		1	2前			1									K	1,2	古池 仁暢 (工学部)
			☆	基礎製図	ジ		2	1前	2											K	1	教育学部所属教員
		機械・電気 (実習を含む。)	★	機械工学概論 (実習を含む。)	コ	②		1前	②											K	1,2	教育学部所属教員
				3Dシミュレーション (工学部 開講科目)	コ		2	1前	2											K	1,2	古池 仁暢 (工学部)
				材料力学基礎 (工学部 開講科目)	コ		2	3前					2							K	1,2	河村 隆介 (工学部)
			★	電気工学概論 (実習を含む。)	コ	②		1前	②											K	1,2	湯地 敏史
			☆	電気電子工学	コ		2	2前			2									K	1,2	湯地 敏史
				電気回路演習	工		2	3後						2						K	1,2	湯地 敏史
				電気応用実験	ジ		1	3後							1					K	1,2	湯地 敏史
		生物育成	★	栽培学 (鹿児島大学教育学部連携開設科目)	コ	②		1後		②										K	1	鹿児島大学教育学部教員
			☆	農場実習	ジ		1	2前			1									K	1,4	教育学部所属教員
	情報とコンピュータ	★	情報処理学	コ	②		2後					②							K	1,5	教育学部所属教員	
			情報科学実習	ジ		1	2前			1									K	1,5	教育学部所属教員	
	職業指導	○	職業指導 (鹿児島大学教育学部連携開設科目)	コ		2	2前				2								K	3	鹿児島大学教育学部教員	
	修得すべき単位数							12	2													
	各教科の 指導法	技術	★	技術科教育法Ⅰ	コ	②		3前					②						L	1,2,3	教育学部所属教員	
				技術科教育法Ⅱ	コ		2	3前					2						L	1,3	教育学部所属教員	
			★	技術科教育法Ⅲ	コ	②		3後						②					L	1,2,3	教育学部所属教員	
				技術科教育法基礎	工		2	2前			2								L	1,2,5	湯地 敏史	
		複数の事項を 合わせた科目		技術科教育実践研究	工		2	2後				2							L	1,2	湯地・教育学部所属教員	
	大学が独自に 設定する科目		小中一貫授業研究(技術)	コ		2	3後							2				L	1,2,3	教育学部所属教員		
	修得すべき単位数							4														

- * 小学校主免専攻は、★印の科目を必修とする。
- * 中学校一種免許取得を希望するものは、★印と☆印の科目を必修とする。
- * 科目区分「生物育成」の科目については、高等学校教諭免許状取得に必要な単位として認定されない。
- * 科目区分「職業指導」の科目については、中学校教諭免許状取得に必要な単位として認定されない。
- * 科目の担当教員は変更になる可能性がある。
- * 中学校一種免許取得を希望するものは、履修について教員に指示を仰ぐ必要がある。
- * ○印は西暦の奇数年度に開講される科目を表す。

小中一貫教育コース 中主免専攻専門科目(国語専修)

分類	科目区分			記号	授業科目	区別	単位		配当年次	1年次		2年次		3年次		4年次		主な 関連能力	教育 方法	担当教員					
	A	B	C				必修	選択		前	後	前	後	前	後	前	後								
4 小中一貫教育コース(国語科)専門科目				国語学	★国語学Ⅰ(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	コ	②		1前	②									K	2,3,5	塚本 泰造				
					国語学Ⅱ	コ	②		1後	②											K	2,3,4,5	塚本 泰造		
					国語学Ⅲ	コ		2	3後							2						K	1,2,3,5	塚本 泰造	
					国語学演習Ⅰ	工	②		2後				②									K	2	塚本 泰造	
					国語学演習Ⅱ	工		2	3後							2						K	1,2	塚本 泰造	
					国文学	★国文学講義Ⅰ	コ	②		1後	②												K	2,5	中村 佳文
						国文学講義Ⅱ	コ	②		1後	②												K	2	教育学部所属教員
						国文学講義Ⅲ	コ		2	2前			2										K	2,5	中村 佳文
						★◎国文学演習Ⅰ	工	②		1前	②												K	2,3	教育学部所属教員
						国文学演習Ⅱ	工	②		1後	②												K	2	教育学部所属教員
				国文学演習Ⅲ		工	②		2後				②									K	2,3,5	中村 佳文	
				★国文学史Ⅰ		コ	②		1前	②												K	2,5	中村 佳文	
				○国文学史Ⅱ		コ	②		2前				②										K	2	教育学部所属教員
				国文学史Ⅲ	コ	②		2後				②										K	2,5	中村 佳文	
				漢文学	★漢文学Ⅰ	コ	②		2前			②										K	2	山元 宣宏	
					漢文学Ⅱ	コ		2	2後			2										K	2	山元 宣宏	
					漢文学演習Ⅰ	工	②		3前						②							K	2	山元 宣宏	
					漢文学演習Ⅱ	工		2	3後						2							K	2	山元 宣宏	
				書道	★書写技法	工	②		1後	②												K	2	山元 宣宏	
					書式技法	工	②		3前						②							K	2	山元 宣宏	
				修得すべき単位数							30														
				各 指 導 科 の	国語	★中等国語科教育法Ⅰ	コ	②		3前						②						L	2,3	中野 登志美	
						中等国語科教育法Ⅱ	コ	②		3前						②						L	2,3,5	李 軍	
						★中等国語科教育法Ⅲ	コ	②		3後						②						L	2,3,5	李 軍	
						国語科教育法基礎	工	②		2前			②										L	2,3,5	中村(佳)・李
						複数の事項を 合わせた科目	国語科教育実践研究	工	②		2後					②							L	2,3	山元・中野
				大学が独自に 設定する科目	小中一貫授業研究(国語)	コ	②		3後							②					L	2,3,4	中野 登志美		
				修得すべき単位数							12														

- * 小主免専攻は、★印の科目を必修とする。
- * ○印は西暦の奇数年度、◎印は西暦の偶数年度に開講される科目を表す。
- * 科目区分「書道」の科目については、高等学校教諭免許状取得に必要な単位として認定されない。
- * 科目の担当教員は変更になる可能性がある。

小中一貫教育コース 中主免専攻専門科目(社会専修)

分類	科目区分			記号	授業科目	区別	単位		配当年次	1年次		2年次		3年次		4年次		主な 関連能力	教育 方法	担当教員				
	A	B	C				必修	選択		前	後	前	後	前	後	前	後							
	小中一貫教育コース(社会科)専門科目						24			6														
5	教科に関する専門的事項	日本史 外国史	★	日本史概論	コ	②		1前	②										K	1,2	相馬 和将			
				日本史特論	コ	②		2後			②									K	1,2	相馬 和将		
				日本史講読	コ工		2	2前			2										K	1,2	相馬 和将	
				史科学	コ		2	2後			2										K	1,2	中堀・相馬	
			△	日本史演習Ⅰ	工		2	3前					2								K	1,2	相馬 和将	
				日本史演習Ⅱ	工		2	3後						2							K	1,2	相馬 和将	
			★	外国史概論	コ	②		1後		②											K	1,2	中堀 博司	
			◆	外国史特論A	コ		2	2前			2										K	1,2	中堀 博司	
			○◆	外国史特論B	コ		2	2後				2									K	1,2	教育学部所属教員	
				外国史講読	コ工		2	2後			2										K	1,2	中堀 博司	
			△	外国史演習Ⅰ	工		2	3前					2								K	1,2	中堀 博司	
				外国史演習Ⅱ	工		2	3後						2							K	1,2	中堀 博司	
			地理学	★	地理学概論(地誌を含む。)	コ	②		1後		②											K	2,5	大平 明夫
					自然地理学概論	コ	②		2前			②										K	2,5	大平 明夫
				◆	自然地理学特論	コ		2	2後				2									K	5	大平 明夫
					地理学演習	工		2	2前			2										K	1	大平 明夫
		△		自然地理学演習Ⅰ	工		2	3前					2								K	1,2,4,5	大平 明夫	
				自然地理学演習Ⅱ	工		2	3後						2							K	1,2,4,5	大平 明夫	
				人文地理学概論	コ	②		2前			②										K	1,2	教育学部所属教員	
		◆		社会地理学	コ		2	1後		2											K	1,2,4	教育学部所属教員	
		△		人文地理学演習Ⅰ	工		2	3前					2								K	1,2,3,4	教育学部所属教員	
				人文地理学演習Ⅱ	工		2	3後						2							K	1,2,3,4	教育学部所属教員	
				地誌学	コ		2	3前					2								K	1,2,4	教育学部所属教員	
		◆		地誌学演習	工		2	2後			2										K	1,2,3,4	教育学部所属教員	
		法学 政治学		法学(国際法を含む。)	コ	②		1前	②												K	2	教育学部所属教員	
			◆	民法	コ		2	1後		2											K	2,3	足立 文美恵 (地域資源創成学部)	
			◆	労働法	コ		2	2後			2										K	2,3	古賀 修平 (地域資源創成学部)	
			★	政治学(国際政治を含む。)	コ	②		1前	②												K	2	松尾 隆佑	
				国際関係論	コ		2	2後			2										K	2	松尾 隆佑	
			△	法律学・政治学演習Ⅰ	工		2	3前					2								K	1	松尾 隆佑	
			法律学・政治学演習Ⅱ	工		2	3後						2							K	1	松尾 隆佑		
		社会学 経済学		社会学原論	コ	②		2後			②										K	2	松尾 隆佑	
			◆	社会学特論	コ		2	3後					2								K	2	教育学部所属教員	
			★	経済学原論 (国際経済を含む。)	コ	②		1前	②												K	2,3,5	植木 洋	
				現代経済論	コ		2	2前			2										K	1,2,3,5	植木 洋	
			◆	経済学特論	コ		2	2後			2										K	1,2,3	植木 洋	
			△	社会学・経済学演習Ⅰ	工		2	3前					2								K	1,2,3,4,5	植木 洋	
			社会学・経済学演習Ⅱ	工		2	3後						2							K	1,2,3,4	植木 洋		
		哲学 倫理学 宗教学	★	哲学概論	コ	②		1後		②											K	1,2	柏葉 武秀	
				哲学特論	コ		2	2前			2										K	1,2	柏葉 武秀	
				倫理学概論	コ	②		2後				②									K	1,2,3	柏葉 武秀	
				倫理学特論	コ		2	3前					2								K	1,2	柏葉 武秀	
			△	哲学・倫理学演習Ⅰ	工		2	3前					2								K	1,2	柏葉 武秀	
				哲学・倫理学演習Ⅱ	工		2	3後						2							K	1,2	柏葉 武秀	
		修得すべき単位数							24	6														
		指導科の 社会	複数 の事項を 合わせた 科目	★	中等社会科教育法Ⅰ	コ	②		3前						②						L	2,3,5	吉村・藤本(将)	
					中等社会科教育法Ⅱ	コ	②		3前						②						L	2,3,5	吉村・藤本(将)	
				★	中等社会科教育法Ⅲ	コ	②		3後							②					L	2,3,5	吉村・藤本(将)	
					社会科教育法基礎	工	②		2前			②										L	2,3,5	吉村・藤本(将)
					社会科教育実践研究	工	②		2後					②								L	2,3,4,5	吉村・藤本(将)
大学が独自に 設定する科目							コ	②										L	2,3,5,6	吉村・藤本(将)				
修得すべき単位数							12																	

- * 小主免専攻は、★印の科目を必修とする。
- * ◆印の科目は高等学校教諭免許状の取得に関係する科目であり、中学校教諭免許状取得に必要な単位としては算定しない。
- * ○印は西暦の奇数年度に開講される科目を表す。
- * △印の科目は、「日本史」「外国史」「人文地理学」「自然地理学」「法律学・政治学」「社会学・経済学」「哲学・倫理学」のいずれかの領域のみ免許状取得に必要な単位として認定する。
- * 科目の担当教員は変更になる可能性がある。

小中一貫教育コース 中主免専攻専門科目（数学専修）

分類	科目区分			記号	授業科目	区別	単位		配当年次	1年次		2年次		3年次		4年次		主な 関連能力	教育 方法	担当教員			
	A	B	C				必修	選択		前	後	前	後	前	後	前	後						
6	小中一貫教育コース（数学科）専門科目	教科に関する専門的事項	代数学	★	代数学入門	コ	②		1前	②									K	2,3	山口 尚哉		
					代数学Ⅰ	コ	②		1後	②										K	1,2,3	山口 尚哉	
					代数学Ⅱ	コ	②		2前		②										K	1,2,3	山口 尚哉
				○	数学特論Ⅰ	工		2	3前					2							K	2,3	山口 尚哉
			幾何学	★	集合論	コ	②		1前	②											K	2,3	平山・藤井
				★	幾何学入門	コ	②		1後	②											K	2,3,5	向江 頼士
					幾何学Ⅰ	コ	②		2前		②										K	2,3,5	向江 頼士
					幾何学Ⅱ	コ	②		2後			②									K	2,3,5	向江 頼士
			解析学	◎	数学特論Ⅱ	工		2	3前					2							K	2,3,5	向江 頼士
				★	解析学入門	コ	②		1後	②											K	2,3	平山 浩之
					解析学Ⅰ	コ	②		2前		②										K	2,3	平山 浩之
					解析学Ⅱ	コ	②		2後			②									K	2,3	平山 浩之
		確率論 統計学	○	数学特論Ⅲ	工		2	3後						2						K	2,3	平山 浩之	
			★	確率・統計学Ⅰ	コ	②		2前		②										K	5	教育学部所属教員	
				確率・統計学Ⅱ	コ		2	2後				2								K	5	教育学部所属教員	
		コン ピュータ	◎	数学特論Ⅳ	工		2	3後						2						K	2,3	教育学部所属教員	
			★	コンピュータ概論	コ	②		2前		②										K	2,3,5	教育学部所属教員	
		修得すべき単位数							24	6													
		各教科の 指導法	数学	★	数学科教育法Ⅰ	コ	②		3前					②						L	2,3,5	添田 佳伸	
					数学科教育法Ⅱ	コ	②		3前					②						L	2,3,5	添田 佳伸	
				★	数学科教育法Ⅲ	コ	②		3後						②					L	2,3,5	木根 主税	
					数学教育法基礎	工	②		2前		②										L	2,3,5	添田・木根
			複数の事項を 合わせた科目		数学教育実践研究	工	②		2後			②								L	2,3,5	木根・平山	
			大学が独自に 設定する科目		小中一貫授業研究（数学）	コ	②		3後					②						L	2,3,5	添田 佳伸	
修得すべき単位数							12																

- * 小主免専攻は、★印の科目を必修とする。
- * ○印は西暦の奇数年度、◎印は西暦の偶数年度に開講される科目を表す。
- * 科目の担当教員は変更になる可能性がある。

小中一貫教育コース 中主免専攻専門科目(理科専修)

分類	科目区分			記号	授業科目	区別	単位		配当年次	1年次		2年次		3年次		4年次		主な 関連能力	教育 方法	担当教員		
	A	B	C				必修	選択		前	後	前	後	前	後	前	後					
	小中一貫教育コース(理科)専門科目																					
7	教科に関する専門的事項	物理学	★	物理学概論Ⅰ	□	②		1後	②									K	1	下村 崇		
				物理学概論Ⅱ	□	②		2前		②									K	1	下村 崇	
				物理学演習	工		2	3後						2						K	1,2	下村 崇
		化学	★	化学概論Ⅰ	□	②		1後	②											K	1,2	有井 秀和
				化学概論Ⅱ	□	②		2前		②										K	1,3	有井 秀和
				化学演習	工		2	3前					2							K	1,2,3	有井 秀和
		生物学	★	生物学概論Ⅰ	□	②		1前	②											K	5	西田・教育学部所属教員
				生物学概論Ⅱ	□	②		2後				②								K	1,5	西田 伸
				生物学演習	工		2	3後						2						K	1,2,3,5	西田 伸
		地学	★	地学概論Ⅰ	□	②		1前	②											K	1,2	隈 隆成
				地学概論Ⅱ	□	②		2後				②								K	1,2	隈 隆成
				地学演習	工		2	3前					2							K	1,2,3,4	隈 隆成
		物理学実験・ 化学実験・ 生物学実験・ 地学実験	★	物理学・化学基礎実験	シ	①		1後	①											K	2,3	下村・有井
			★	生物学・地学基礎実験	シ	①		1前	①											K	2,3,4	西田・隈
			☆	物理学実験	シ		2	2前			2									K	2,3	下村 崇
			☆	化学実験	シ		2	2前			2									K	1,2,3	有井 秀和
			☆	生物学実験	シ		2	2後				2								K	1,2,3,4,5	西田 伸
			☆	地学実験	シ		2	2後					2							K	1,2,3,4	隈 隆成
		修得すべき単位数						18	12													
		各教科の 指導法	理科	★	中等理科教育法Ⅰ	□	②		3前					②						L	2,3,5	中村(大)・野添・教育学部所属教員
					中等理科教育法Ⅱ	□	②		3前					②						L	1,2,3,5,6	中村(大)・野添・教育学部所属教員
★	中等理科教育法Ⅲ			□	②		3後						②					L	2,3,5,6	教育学部所属教員・野添・中村(大)		
	理科教育法基礎			工	②		2前			②									L	2,3,4	教育学部所属教員・野添・中村(大)	
複数の事項を 合わせた科目	理科教育実践研究		工	②		2後					②							L	1,2,3,4	中村(大)・教育学部所属教員・ 下村・有井・西田・隈・野添		
大学が独自に 設定する科目	小中一貫授業研究(理科)	□	②		3後							②					L	2,3,5	教育学部所属教員・野添・中村(大)			
修得すべき単位数						12																

- * 小主免専攻は、★印の科目を必修とする。
- * 小主免専攻は、☆印から1科目(2単位)を選択必修とする。
- * 科目の担当教員は変更になる可能性がある。

小中一貫教育コース 中主免専攻専門科目(音楽専修)

分類	科目区分			記号	授業科目	区別	単位		配当年次	1年次		2年次		3年次		4年次		主な 関連能力	教育 方法	担当教員					
	A	B	C				必修	選択		前	後	前	後	前	後	前	後								
8	小中一貫教育コース(音楽科)専門科目	教科に関する専門的事項	ソルフェージュ	★	ソルフェージュⅠ	エ	②		1前	②									K	1,2,3	阪本 幹子				
					ソルフェージュⅡ	エ	②		1後	②											K	1,2,3	阪本 幹子		
			声乐					声乐概論	コ	②		1前	②									K	1,2,5	藤本 いく代	
								基礎声乐	ジ	①		1後	①										K	1,2,5	藤本 いく代
				★				声乐Ⅰ (日本の伝統的歌唱を含む。)	ジ	①		2前		①									K	1,2,5	藤本 いく代
								声乐Ⅱ	ジ	①		2後			①								K	1,2,5	藤本 いく代
								声乐Ⅲ	ジ		1	3前					1						K	1,2,5	藤本 いく代
				★				合唱Ⅰ	ジ	①		2前		①									K	1,3,5	藤本 いく代
								合唱Ⅱ	ジ	①		2後			①								K	1,3,5	藤本 いく代
								合唱Ⅲ	ジ		1	3後						1					K	1,3,5	藤本 いく代
			器楽					鍵盤楽器概論	コ	②		1前	②										K	1,3,5	阪本 幹子
								基礎ピアノ	ジ	①		1後	①										K	1,2	阪本 幹子
				★				ピアノⅠ(伴奏法を含む。)	ジ	①		2前		①									K	1,2	阪本 幹子
								ピアノⅡ	ジ	①		2後			①								K	1,2	阪本 幹子
								ピアノⅢ	ジ		1	3前					1						K	1,2	阪本 幹子
				★				和楽器	ジ	①		2前		①									K	1,2,3	教育学部所属教員
				★				合奏Ⅰ	ジ	①		2前		①									K	1,2,3	浦 雄一
								合奏Ⅱ	ジ		1	3前					1						K	1,2,3	浦 雄一
			指揮法	★◎			指揮法	ジ	①		2前		①									K	1,2,3	浦 雄一	
			音楽理論等	★				音楽理論	コ	②		2前		②									K	1,2	浦 雄一
				★				作曲法(編曲法を含む。)	エ	②		2後			②								K	1,2,3	浦 雄一
				★				音楽史Ⅰ(日本の伝統音楽及び諸民族音楽を含む。)	コ	②		2前			②								K	1,2,4,5,8	酒井 勇也
								音楽史Ⅱ	コ	②		2後			②								K	1,2,4,5,8	酒井 勇也
								音楽表現研究Ⅰ	エ	②		3前					②						K	1,2	藤本(い)・阪本・浦
								音楽表現研究Ⅱ	エ		2	3後							2				K	1,2	藤本(い)・阪本・浦
			修得すべき単位数							29	1														
			各教科の指導法	音楽	★			中等音楽科教育法Ⅰ	コ	②		3前					②					L	1,2,3,5	菅 裕	
								中等音楽科教育法Ⅱ	コ	②		3前					②						L	1,2,5	酒井 勇也
					★			中等音楽科教育法Ⅲ	コ	②		3後					②						L	1,2,3,5	菅・酒井
								音楽科教育法基礎	エ	②		2前			②								L	1,2,3,5	菅・藤本(い)・阪本・浦・酒井
複数の事項を合わせた科目				音楽科教育実践研究	エ	②		2後			②								L	1,2,3,5	菅・藤本(い)・阪本・浦・酒井				
大学が独自に設定する科目				小中一貫授業研究(音楽)	コ	②		3後						②					L	1,2,3,5	菅・酒井				
修得すべき単位数							12																		

- * 小主免専攻は、★印の科目を必修とする。
- * ◎印は西暦の偶数年度に開講される科目を表す。
- * 科目の担当教員は変更になる可能性がある。

小中一貫教育コース 中主免専攻専門科目(美術専修)

分類	科目区分			記号	授業科目	区別	単位		配当年次	1年次		2年次		3年次		4年次		主な 関連能力	教育 方法	担当教員			
	A	B	C				必修	選択		前	後	前	後	前	後	前	後						
9	小中一貫教育コース(美術科)専門科目	教科に関する専門的事項	絵画	★	絵画表現Ⅰ(映像メディア表現を含む。)	コ	②		1後		②								K	1,2	大泉 佳広		
					絵画表現Ⅱ	工	②		2前		②									K	1,2	大泉 佳広	
					絵画表現Ⅲ	工		1	2後					1							K	1,2	大泉 佳広
					絵画表現Ⅳ	工		1	3前						1						K	1,2	大泉 佳広
					絵画表現Ⅴ	工		1	3後							1					K	1,2	大泉 佳広
			彫刻	★	彫塑表現Ⅰ	コ	②		1前	②											K	1,2	大野 匠
					彫塑表現Ⅱ	工	②		1後	②											K	1,2	大野 匠
					彫塑表現Ⅲ	工		1	2前				1								K	1,2	大野 匠
					彫塑表現Ⅳ	工		1	3前						1						K	1,2	大野 匠
					彫塑表現Ⅴ	工		1	3後							1					K	1,2	大野 匠
			デザイン	★	デザインⅠ(映像メディア表現を含む。)	コ	②		1前	②											K	1,3,5	大泉 佳広
					デザインⅡ	工	②		2前		②										K	1,3,5	大泉 佳広
					デザインⅢ	工		1	3前						1						K	1,3,5	樺島 優子
			工芸	★	工芸表現Ⅰ	コ	②		1後	②											K	1,2	大野 匠
					工芸表現Ⅱ	工	②		2後				②								K	1,2	大野 匠
					工芸表現Ⅲ	工		1	3後							1					K	1,2	大野 匠
			美術理論 美術史	★	美術鑑賞基礎(鑑賞、日本伝統美術、アジアの美術を含む。)	コ	②		1前	②											K	1,2,5	松下 久子
				★	美術理論Ⅰ	コ	②		2前		②										K	1,2,5	松下 久子
					美術理論Ⅱ	工		2	2後					2							K	1,2,5	松下 久子
					美術理論Ⅲ	工		2	3前						2						K	1,2,5	松下 久子
			修得すべき単位数							20	10												
			各教科の 指導法の	美術	★	美術科教育法Ⅰ	コ	②		3前						②					L	1,2,5	幸 秀樹
						美術科教育法Ⅱ	コ	②		3前						②					L	1,2,5	樺島 優子
					★	美術科教育法Ⅲ	コ	②		3後							②				L	1,2,5	樺島 優子
						美術科教育法基礎	工	②		2前			②									L	2,3,4,5
					複数の事項を 合わせた科目		美術科教育実践研究	工	②		2後				②						L	2,3,4,5	幸・松下・樺島
				大学が独自に 設定する科目		小中一貫授業研究(美術)	コ	②		3後						②				L	1,2,5	幸・樺島	
			修得すべき単位数							12													

- * 小主免専攻は、★印の科目を必修とする。
- * 科目の担当教員は変更になる可能性がある。

小中一貫教育コース 中主免専攻専門科目(保健体育専修)

分類	科目区分			記号	授業科目	区別	単位		配当 年次	1年次		2年次		3年次		4年次		主な 関連能力	教育 方法	担当教員				
	A	B	C				必修	選択		前	後	前	後	前	後	前	後							
10	小中一貫教育コース(保健体育科)専門科目	教科に関する専門的事項	「体育原理・体育心理学・体育経営管理・体育社会学・体育史」及び運動学	☆ 体育学Ⅰ	コ	②			2前			②							K	1,2,3,4	宇土 昌志			
				☆ 体育学Ⅱ	コ	②			2後				②								K	1,2,3	日高 正博	
				☆ 体育学Ⅲ	コ	②			2前				②									K	1,2,3	志々目 由理江
				★ 運動学 (運動方法学を含む。)	コ	②			2前				②									K	1,2	井関 実紀
			生理学	★	生理学 (運動生理学を含む。)	コ	②				2後			②								K	1,2,5	塩瀬 圭佑
			衛生学	★	衛生公衆衛生学	コ	②				2前			②								K	1,2,5	塩瀬 圭佑
			学校保健	★	学校保健	コ	②				1前	②										K	1,2,5	塩瀬 圭佑
					学校保健実習Ⅰ	ジ	①				3前					①						K	1,2,3,4,5	塩瀬 圭佑
					学校保健実習Ⅱ	ジ	①				3後						①					K	1,2,3,4,5	塩瀬 圭佑
			体育実技		体育実技Ⅰ (陸上競技を含む。)	ジ	①				1後		①									K	1,2,3,4	宇土 昌志
					体育実技Ⅱ (水泳を含む。)	ジ	①				1後		①									K	1,2,3,4	佐々 敬政
					体育実技Ⅲ (器械運動を含む。)	ジ	①				1前	①										K	1,2,4	井関 実紀
					体育実技Ⅳ (ダンスを含む。)	ジ	①				1前	①										K	1,2,4,5	井関 実紀
				○	体育実技Ⅴ (球技を含む。)	ジ	①				1後		①									K	1,3,4	佐々 敬政
				◎	体育実技Ⅵ (球技を含む。)	ジ	①				1後		①									K	1,3,4	佐々 敬政
				○	体育実技Ⅶ (球技を含む。)	ジ	①				1後		①									K	1,2,3,4	日高 正博
					体育実技Ⅷ (武道を含む。)	ジ	①				1後		①									K	1,2,3,4	志々目 由理江
				★	基礎実技演習Ⅰ	工	①				1後		①									K	1,2,4,5	宇土・志々目・佐々・井関
				★	基礎実技演習Ⅱ	工	①				1後		①									K	1,2,3,4	日高 正博
					体づくり運動実践法	工	①				1前	①										K	1,4	日高・佐々
					個人スポーツ実践法	工	①				3前					①						K	1,2,3,4	宇土・井関
				対人スポーツ実践法	工	①				2前			①								K	1,2,3,4	志々目 由理江	
				チームスポーツ実践法	工	①				3前					①						K	1,3,4	佐々 敬政	
			修得すべき単位数						30															
			各教科の 指導法	保体	★	保健体育科教育法Ⅰ	コ	②			3前					②					L	1,2,3,5	日高 正博	
						保健体育科教育法Ⅱ	コ	②			3前					②					L	1	日高 正博	
					★	保健体育科教育法Ⅲ	コ	②			3後						②				L	1,2,3,5	佐々 敬政	
						保健体育科教育法基礎	工	②			2前			②								L	1,2,5	日高・宇土・塩瀬・井関
複数の事項を 合わせた科目			保健体育科教育実践研究	工	②			2後				②						L	1,2,5	日高・志々目・塩瀬・井関				
大学が独自に 設定する科目			小中一貫授業研究(保健体育)	コ	②			3後						②				L	1,2,3,4	日高 正博				
修得すべき単位数						12																		

- * 小主免専攻は、★印の科目を必修とする。
- * 小主免専攻は、☆印の体育学Ⅰ～Ⅲから1科目(2単位)を選択必修とする。
- * ○印は西暦の奇数年度、◎印は西暦の偶数年度に開講される科目を表す。
- * 科目の担当教員は変更になる可能性がある。

小中一貫教育コース 中主免専攻専門科目(家庭専修)

分類	科目区分			記号	授業科目	区別	単位		配当年次	1年次		2年次		3年次		4年次		主な関連能力	教育方法	担当教員			
	A	B	C				必修	選択		前	後	前	後	前	後	前	後						
11	小中一貫教育コース(家庭科)専門科目	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)	★○	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)	コ	②		1後		②								K	1,2,5	教育学部所属教員			
			○	家族生活学	コ	②		1後		②									K	1,2,5	教育学部所属教員		
				家族と法(地域資源創成学部 開講科目)	コ		2	4前								2				K		足立 文美恵 (地域資源創成学部)	
		被服学(被服実習を含む。)	★	被服学(被服実習を含む。)	コ	②		1前	②											K	1,2,5	藤本 明弘	
				被服学基礎実習	ジ	②		2前		②										K	1,2,3	藤本 明弘	
				被服学応用実習	ジ		1	3前					1							K	1,2	藤本 明弘	
				被服材料学	コ		2	1後		2										K	1,2,3,5	藤本 明弘	
				被服学実験	ジ		1	2前			1										K	1,2,3	藤本 明弘
				被服整理学	コ		2	1後		2											K	1,2,5	藤本 明弘
				被服学応用実験	ジ		1	3後								1					K	1,2,3	藤本 明弘
		食物学(栄養学、食品学及び調理実習を含む。)	★	食物学(栄養学・食品学及び調理実習を含む。)	コ	②		1後	②											K	1,2	瀧元 有理	
				栄養の生活科学	コ	②		2前		②										K	1,2,5	瀧元 有理	
			★	調理学実習	ジ	②		1前	②											K	1,3	瀧元 有理	
			○	食物学実習	工		1	3後							1					K	1,2,3	瀧元 有理	
			○	食物学実験	ジ		1	3後							1					K	1,3	瀧元 有理	
		住居学	★	住居学(製図を含む。)	コ	②		1前	②											K	1,2,5	教育学部所属教員	
				住居学実験	ジ		1	2前			1									K	1,2,3	教育学部所属教員	
				居住福祉論	コ	②		2後				②								K	1,2,4,5	教育学部所属教員	
		保育学	★	保育学(実習及び家庭看護を含む。)	コ	②		2前		②										K	1,2,4	教育学部所属教員	
				子ども生活論	工		2	2後					2							K	1,2,5	教育学部所属教員	
		修得すべき単位数							20	10													
		各教科の指導法	家庭	★	中等家庭科教育法Ⅰ	コ	②		3前						②					L	1,2,5	伊波 富久美	
					中等家庭科教育法Ⅱ	コ	②		3前						②					L	2,3,5	教育学部所属教員	
				★	中等家庭科教育法Ⅲ	コ	②		3後							②				L	2,3,5	伊波 富久美	
					家庭科教育法基礎	工	②		2前			②									L	1,2	伊波・瀧元
				複数の事項を合わせた科目		家庭科教育実践研究	工	②		2後			②								L	1,2,5	藤本(明)・瀧元
			大学が独自に設定する科目		小中一貫授業研究(家庭)	コ	②		3後						②					L	1,2,3,4,5	教育学部所属教員	
修得すべき単位数							12																

- * 小主免専攻は、★印の科目を必修とする。
- * ○印は西暦の奇数年度、◎印は西暦の偶数年度に開講される科目を表す。
- * 科目の担当教員は変更になる可能性がある。

小中一貫教育コース 中主免専攻専門科目(英語専修)

分類	科目区分			記号	授業科目	区別	単位		配当年次	1年次		2年次		3年次		4年次		主な 関連能力	教育 方法	担当教員					
	A	B	C				必修	選択		前	後	前	後	前	後	前	後								
12	小中一貫教育コース(英語科)専門科目	教科に関する専門的事項	英語学	★	英文読解・表現法	工	②		1前	②									K	1,2,3	本多 正敏				
				★	英語学概論	コ	②		1前	②											K	1,2,3	本多 正敏		
				☆	英語学演習 I	工	②		1後	②												K	1,2,3	本多 正敏	
				☆	英語学演習 II	工	②		2後					②									K	1,2,3	本多 正敏
			英語文学	☆	米文学読解法基礎	ジ	①		1前	①												K	1,2,3,5	井崎 浩	
				☆	英文学読解法基礎	ジ	①		1後	①												K	2,3,5	新名 桂子	
				★	英文学概論	コ	②		1前	②												K	2,3,5	新名 桂子	
				★	米文学概論	コ	②		1後	②												K	2,3,5	井崎 浩	
					英文学読解法	ジ	①		2前					①									K	2,3,5	新名 桂子
					米文学読解法	ジ	①		2後						①								K	1,2,3,5	井崎 浩
					米文学演習	ジ		1	3前								1						K	1,2,3,5	井崎 浩
					英文学演習	ジ		1	3後									1					K	2,3,5	新名 桂子
			英語コミュニケーション	★	口語英語 I	ジ	①		1前	①												K	1,2,3,5	ダニエル・コーツ	
					口語英語 II	ジ	①		1後	①													K	1,2,3,5	ダニエル・コーツ
					口語英語 III	ジ	①		2後					①									K	2,3,5	ダニエル・コーツ
					口語英語 IV	ジ		1	3前							1							K	1,2,3,5	ダニエル・コーツ
				☆	英語聴解法 I	ジ	①		1前	①													K	1,2,3,5	ダニエル・コーツ
					英語聴解法 II	ジ	①		2前					①									K	1,2,3,5	ダニエル・コーツ
				☆	英語テキスト コミュニケーション I	ジ	①		1後	①													K	1,3	本多 正敏
					英語テキスト コミュニケーション II	ジ	①		2後						①								K	1,2,3,5	ダニエル・コーツ
				★	英語コミュニケーション論	コ	②		2前					②									K	2,3,5	ダニエル・コーツ
					英語プレゼンテーション	ジ		1	3後									1					K	1,2,3,5	ダニエル・コーツ
			異文化理解	★	異文化理解	工	②		4後										②			K	2,3,5	ダニエル・コーツ	
			修得すべき単位数							27	3														
			各教科の指導法	英語	★	中等英語教育法 I	コ	②		3前							②					L	1,2,3	早瀬 沙織	
						中等英語教育法 II	コ	②		3前							②						L	1,2,3	興津 紀子
					★	中等英語教育法 III	コ	②		3後							②						L	1,2,3	興津・早瀬
	英語教育法基礎	工			②		2前					②								L	1,2,3,5	興津 紀子			
複数の事項を合わせた科目			英語教育実践研究	工	②		2後						②						L	1,2,3,5	井崎・新名・早瀬				
大学が独自に設定する科目			小中一貫授業研究(英語)	コ	②		3後							②					L	1,2,3,5	早瀬 沙織				
修得すべき単位数							12																		

- * 小主免専攻は、★印の科目を必修とする。
- * 小主免専攻は、☆印の科目も選択履修することが望ましい。
- * 科目の担当教員は変更になる可能性がある。

小中一貫教育コース 中主免専攻専門科目(教職専門科目、教科または教職専門科目)

分類	科目区分			記号	授業科目	区別	単位		相当年次	1年次		2年次		3年次		4年次		主な関連能力	教育方法	担当教員		
	A	B	C				必修	選択		前	後	前	後	前	後	前	後					
13	理解教育に関する基礎的	教育の理念		教育本質論	コ	②		1前	②									J	2	深見 奨平		
		心身の発達	♣	学校教育心理学	コ	②		2前		②									E	2,3,5	尾之上 高哉	
		教育制度		教育制度論	コ	②		1後	②										J	5	湯田 拓史	
		教育課程		教育課程論	コ	②		1後	②										L	2,3,5	遠藤 宏美	
		等徳の指導法及び総合的な学習の時間	道徳の理論		道徳教育論	コ	②		3前				②							L	2,3	椋木 香子
			総合的な学習		総合的な学習の時間の指導法	コ	①		3後					①						L	2,3,5	吉村・遠藤
			特別活動		特別活動論	コ	②		2後			②								F	2,3,5	盛満 弥生
			教育の方法		教育の方法と技術(情報通信技術の活用を含む。)	コ	②		2後			②								L	2,5,6	竹内・小林・新地
	生徒指導			生徒指導概論(進路指導を含む。)	コ	②		3後					②						F	2,3	教育学部所属教員	
	教育相談		教育相談(カウンセリングの基礎的知識を含む。)	コ	②		2後			②									F	2	境 泉洋	
	関教育実践に	教育実習	教育実習Ⅰ		教育実習Ⅰ	ジ	①		2前		①								I	2,3,4	教育実習運営委員会	
			教育実習Ⅱ		教育実習Ⅱ	ジ	③		3前				③						I	2,3,4	教育実習運営委員会	
			教育実習Ⅲ		教育実習Ⅲ	ジ	①		3後					①					I	2,3,4	教育実習運営委員会	
教育実習Ⅳ				教育実習Ⅳ	ジ	②		4前						②					I	2,3,4	教育実習運営委員会	
★教育実習基礎研究(中高)				★教育実習基礎研究(中高)	ジ	①		3全					①						I	2,3,6	竹内 元	
教職実践演習		教職実践演習(幼小中高)(SPARC科目)	エ	②		4後							②			D,H	2,3,4	学校教育課程全教員				
修得すべき単位数							29															

- * 小主免専攻は、★印の科目を必修とする。
- * 科目の担当教員は変更になる可能性がある。
- ※ 准学校心理士の資格を取得する場合、♣印を付した科目を履修すること。

教職実践基礎コース 教職実践基礎専攻専門科目

分類	科目区分			記号	授業科目	区別	単位		配当年次	1年次		2年次		3年次		4年次		主な 関連能力	教育 方法	担当教員	
	A	B	C				必修	選択		前	後	前	後	前	後	前	後				
14 教職実践基礎コース専門科目					現代の教育課題と学校	コ	②		1後	②								J	1,2,3,5	盛満・深見・椋木・遠藤・小林・竹内・湯田・新地	
					教育学総合演習	工	②		3後					②				J	1,2	盛満・深見・椋木・遠藤・小林・竹内・湯田・新地	
					地域教育コラボレーション (SPARC科目)	工	②		4全						②			I	1,2,3,4	盛満・深見・椋木・遠藤・小林・竹内・湯田・新地	
		教育に関する基礎的科目理解			教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	コ	②		2後			②						J	1,2,5	深見 奨平	
					教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	工	①		3前			①						J	1,2	深見 奨平	
						教育社会学	コ	②		2前		②							J	1,2,5	盛満 弥生
						教育社会学演習	工	①		3前			①						J	1,2,3	盛満 弥生
						学校制度論	コ		2	3後					2				J	1,2,3	湯田 拓史
					㍑	学校・学級経営論	コ		2	4全						2			F	1,2,3,5	盛満・湯田
					㍑	教育課程・授業研究論	コ		2	4全						2			L	1,2,3,4,5	竹内・遠藤・小林
		等 の 指 導 法 等 に 関 する 科 目			ICT活用教育	コ	②		2前		②							L	1,2,3,5	小林・新地	
					教育の方法と技術 (情報通信技術の活用を含む。)	コ	②		2後			②						J	1,2,3,5	遠藤 宏美	
						教育方法学演習	工	①		3前				①					J	1,2,3,5	遠藤 宏美
						情報教育演習	工	①		3前				①					L	1,2,3,5	小林・新地
				道徳の理論及び指導法	コ		2	4全						2			L	1,2	椋木・深見		
修得すべき単位数							18	4													

- * ㍑印が付している科目はどちらか2単位が選択必修である。
- * 科目の担当教員は変更になる可能性がある。

発達支援教育コース 子ども理解専攻専門科目

分類	科目区分			記号	授業科目	区別	単位		配当年次	1年次		2年次		3年次		4年次		主な関連能力	教育方法	担当教員				
	A	B	C				必修	選択		前	後	前	後	前	後	前	後							
15	発達支援教育 コース科目				子どもの発達と教育支援	コ	②		1後		②							E	5	境・尾之上・戸ヶ崎・若林・尾崎・教育学部所属教員				
16	発達支援教育コース 子ども理解専攻専門科目	教育関係の基礎的科目理解に	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	☺	発達心理学	コ	②		1後		②								J	3,5	教育学部所属教員			
					教育心理学演習	エ		1	1前	1											J	1,2	尾之上 高哉	
					発達心理学演習	エ		1	1後	1												J	3	教育学部所属教員
					教育心理学実験	ジ		1	2前			1										J	1,3	境・尾之上・教育学部所属教員
					教育心理学研究法Ⅰ	エ	①		3前					①								J	1,2,3	境・尾之上・教育学部所属教員
					教育心理学研究法Ⅱ	エ	①		3後						①							J	1,2,3	境・尾之上・教育学部所属教員
		教育及び生徒等に関する指導、導	教育相談の理論及び方法	☺	学校教育の臨床心理学	コ	②			2前			②								F	2,3	境・教育学部所属教員	
					小中学校における特別支援教育のアセスメント演習	コ		2	3前						2						E	2,3	境 泉洋	
					教育臨床心理学演習	エ		1	2後					1							F	2,3	教育学部所属教員	
		大定自学が目	その他		小中学校における特別支援教育演習	エ		1	4前							1				F	2,3	境 泉洋		
					教育統計法	コ		2	2後					2							J	3	境・尾之上・教育学部所属教員	
					幼児と健康	コ	②		2後					②							L	2,3,4,5	塩瀬 圭佑	
		幼稚園教育	領域に関する専門事項		幼児と人間関係	コ	②		3前					②							L	2,3	教育学部所属教員	
					幼児と環境	コ	②		2前				②								L	2,3,5	添田・中村(大)	
					幼児と言葉	コ	②		1後		②										L	2,3	尾之上 高哉	
					幼児と表現	コ	②		1後		②										L	2,3,5	樺島・藤本(い)・阪本・浦・井関	
	保育内容の指導演法			コ	②		1前	②												E	2,3	椋木・湯田		
教育実習	保育内容の指導演法			保育内容の指導演法	コ	④		3全					④							E	2,3,5	椋木・小林		
				幼児理解	コ	②		2前			②									E	5	立元・境		
	教育実習			幼稚園観察実習	ジ	①		2全				①								I	2,3,4	教育実習運営委員会		
				幼稚園教育実習	ジ	②		4前						②						I	2,3,4	教育実習運営委員会		
	修得すべき単位数							29	4															

* ■印を付した教育実習科目については、分類16の「幼稚園教育実習」、もしくは分類2の「教育実習Ⅳ」のいずれかを選択し2単位を修得する。

* 科目の担当教員は変更になる可能性がある。

※ 准学校心理士の資格を取得する場合、☺印を付した科目を履修すること。

発達支援教育コース 特別支援教育専攻専門科目(特別支援教育に関する科目)

分類	科目区分			記号	授業科目	区別	単位		配当年次	1年次		2年次		3年次		4年次		主な 関連能力	教育 方法	担当教員			
	A	B	C				必修	選択		前	後	前	後	前	後	前	後						
17	発達支援教育コース特別支援教育専攻専門科目	特別支援教育の基礎理論に関する科目		障害児教育学総論	コ	②		1前	②									J	2,5	若林・酒井			
			心理、生理及び病理		知的障害者の心理・生理・病理	コ	②		1後		②									E	2,5	教育学部所属教員・楠元	
					肢体不自由者の心理・生理・病理	コ	②		2前			②								E	2,5	尾崎 充希	
					病弱者の心理・生理・病理	コ	②		2後				②							E	2,5	尾崎・戸ヶ崎	
					障害児アセスメント	コ		2	2前			2									E	2,3	教育学部所属教員・戸ヶ崎
			教育課程及び指導法		障害児教育課程	コ	②		1後		②										L	2,5	若林 上総
					知的障害児教育	コ	②		3前					②							L	2,3,4	戸ヶ崎・酒井
					肢体不自由児教育	コ	②		2後				②								L	2,3,5	若林・尾崎
					病弱児教育	コ	②		3後						②						L	2,5	若林・戸ヶ崎
				特別支援学級経営	コ	②		3前						②						F	2,3,4	教育学部所属教員・酒井	
			心理、生理及び病理・教育課程及び指導法	△		障害児指導法A(前期)(障害児教育)	工		1	3前						1					L	1,2,3	若林 上総
						障害児指導法A(後期)(障害児教育)	工		1	3後						1					L	1,2,3,	
		△			障害児指導法B(前期)(障害児生理・病理)	工		1	3前							1					L	1,2,3	尾崎 充希
					障害児指導法B(後期)(障害児生理・病理)	工		1	3後							1					L	1,2,3	
		△			障害児指導法C(前期)(障害児心理)	工		1	3前							1					L	1,2,3	戸ヶ崎 泰子 教育学部所属教員
					障害児指導法C(後期)(障害児心理)	工		1	3後							1					L	1,2,3	
					特別支援基礎実践Ⅰ	ジ		1	1全	1											D,H	1,2,3,4	戸ヶ崎・若林・尾崎・教育学部所属教員
					特別支援基礎実践Ⅱ	ジ		1	2全					1							D,H	1,2,3,4	戸ヶ崎・若林・尾崎・教育学部所属教員
		上記以外の科目	心理、生理及び病理・教育課程及び指導法		発達障害教育総論	コ	②		2後				②							L	2,3,5	戸ヶ崎 泰子	
					重複障害児教育	コ	②		3後					②						L	2,5	尾崎 充希	
				○	視覚障害教育総論	コ	①		2前			①								J	2,5	教育学部所属教員	
				◎	聴覚障害教育総論	コ	①		2後				①							J	2,5	教育学部所属教員	
		教育実践に	教育実習		特別支援学校観察実習	ジ	①		2全				①							I	1,2,3	教育実習運営委員会	
					特別支援学校教育実習	ジ	②		4前							②				I	1,2,3,4	教育実習運営委員会	
		修得すべき単位数						27	4														

* △印の科目は、前後学期1単位ずつ(合計2単位)選択必修とする。

* ○印は西暦の奇数年度、◎印は西暦の偶数年度に開講される科目を表す。

* 科目の担当教員は変更になる可能性がある。

学校教育課程 課程共通(必修・選択)科目

分類	科目区分			記号	授業科目	区別	単位		配当年次	1年次		2年次		3年次		4年次		主な関連能力	教育方法	担当教員			
	A	B	C				必修	選択		前	後	前	後	前	後	前	後						
18	必修 課程 共通 科目	設 大 学 が 独 自 に	其 他		介護体験	ジ	①		2全				①						C	1,2,3,4,5	介護等体験活動運営委員会		
					教育フィールド体験 ・保育所コース ・幼稚園コース ・特別支援学校コース ・スクールトライアルコース ・小規模校等コース	ジ	①		1全	①										B	2,3,4	教育フィールド体験運営委員会	
					人権同和教育	コ	②		3後							②					A	2	椋木・相馬
18	選 課 程 共 通 科目	設 大 学 が 独 自 に	其 他		通常の学級における特別支援教育	コ		2	2後				2						J	2,3,5	若林・尾崎・教育学部所属教員		
					STEAM教育	コ		2	4後							2				L	2,3,5,6	小林・新地	
					プログラミング教育	コ		2	3前					2							L	2,3,5,6	小林・新地
					教室活用英語	コ		2	3前					2							L	3,4	早瀬 沙織
			其 他		地域教育課題研究Ⅰ	コ		1	1全	1											I	2,3,4	永倉 英了
					地域教育課題研究Ⅱ	コ		1	2全			1									I	2,3,4	永倉 英了
修得すべき単位数							4																

* 学校教育体験学習（小規模校等コース）は教職実践基礎コースの学生のみ受講。

地理歴史・公民・工業に関する教科教育法科目

分類	科目区分			記号	授業科目	区別	単位		配当年次	1年次		2年次		3年次		4年次		関連能力	教育方法	担当教員	
	A	B	C				必修	選択		前	後	前	後	前	後	前	後				
19	各 指 導 法 の	地 歴	地歴	地理・歴史科教育法	コ		2	3前						2				N	2,3,5	藤本 将人	
			公民	公民科教育法	コ		2	3後						2					N	2,3,5	吉村 功太郎
			工業	工業科教育法	コ		4	2全			4								N	2,3,5	湯地 敏史

卒業論文に関する科目

分類	科目区分			記号	授業科目	区別	単位		配当年次	1年次		2年次		3年次		4年次		関連能力	教育方法	担当教員
	A	B	C				必修	選択		前	後	前	後	前	後	前	後			
20					卒業論文		④		4全								④			教育学部指導教員

【8】 体験活動及び教育実習等について

卒業時まで、以下の体験活動及び教育実習が必修科目として実施される。

教育学部では、4年間の学習において、教職についての理解を深め、教科指導や生徒指導等に関する基礎的・基本的な資質能力・実践的指導力を身に付けるために、ステージ論に基づき、教育職員免許法に基づいて開講すべき科目群を、4つのステージの中にそれぞれ適切に配置し、カリキュラムを構成している。

教育実習は、各ステージにおいて学習した教育理論と教育技術を実践することにより、様々な体験を通して、教師としての意識や能力をステップアップする場となっている。したがって、各教育実習を履修するための要件(履修要件)が設けてあるので、十分留意しておく必要がある。

(1) 体験活動及び教育実習の内容

	介護体験 (1単位)注1	<ul style="list-style-type: none"> 障害児の話し相手、散歩等、日常生活の介護や介助等の援助を体験する。
教育 フイ ールド 体験 (1 単位)	保育所コース注2	<ul style="list-style-type: none"> 幼児の遊びや生活を観察する。 宮崎市清武町内の7保育園で行う。
	幼稚園コース注2	<ul style="list-style-type: none"> 幼児の遊びや生活を観察する。 附属幼稚園で行う。
	特別支援学校コース注2	<ul style="list-style-type: none"> 教員の職務について観察し、児童生徒とふれあう。 宮崎県立清武せいりゅう支援学校で行う。
	スクールトライアルコース注2	<ul style="list-style-type: none"> 教員の職務について観察し、児童生徒とふれあう。 公立小学校、又は中学校で行う。
	小規模校等コース注2	<ul style="list-style-type: none"> 教員の職務について観察し、児童生徒とふれあう。 公立小学校、又は中学校で行う。
教 育 実 習	実習Ⅰ (観察・参加) (1単位)注3	<ul style="list-style-type: none"> 子どもとふれあい、実態を理解する。学校生活の流れや授業の実際を観察し、教師になる心構えをもつ。 附属小学校、又は附属中学校で行う。
	実習Ⅱ (基本・展開) (3単位)注3	<ul style="list-style-type: none"> 子どもに対する理解を深め、実際の授業を行って適切な指導方法を体得する。学級経営の実際を学ぶ。 附属小学校、又は附属中学校で行う。
	実習Ⅲ (異学校種) (1単位)注3	<ul style="list-style-type: none"> 実習Ⅰ・実習Ⅱとは異なる学校種の子どもとふれあい、学校生活の流れや授業の実際を観察し、異なる学校種の特色を理解する。 附属小学校、又は附属中学校で行う。
	実習Ⅳ (応用) (2単位)注3	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの個性や環境に配慮し、個に応じた指導を行う。学校の特色を理解し、地域との連携の方法を学ぶ。 公立小学校、又は中学校で行う。
	幼稚園観察実習 (1単位)	<ul style="list-style-type: none"> 幼児とふれあい、幼児の生活の実態を理解する。教育課程から日々の保育の指導計画の流れに接し、幼児教育の実際を理解する。 附属幼稚園で行う。
	幼稚園教育実習 (2単位)	<ul style="list-style-type: none"> 幼児に対する理解を深め、日々の保育の指導を計画するとともに、実際の保育を行って指導方法を体得する。 附属幼稚園で行う。
	特別支援学校観察実習 (1単位)	<ul style="list-style-type: none"> 障害のある子どもとふれあい、さまざまな障害の実態を知り、障害の種類に応じた指導・支援の必要性について学ぶ。 県立特別支援学校で行う。
	特別支援学校教育実習 (2単位)	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの障害の種類や程度に応じたきめ細やかな指導方法を体得する。 特別支援学校の実際や保護者との連携について学ぶ。 県立特別支援学校で行う。

注1：事前・事後指導にも必ず出席しなければならない。

注2：1年次の4月初旬に1つを選択し、1年次に履修する。

注3：この他に「教育実習基礎研究」(必修1単位)もあわせて履修し、事前・事後指導にも必ず出席しなければならない。

なお、教育実習の詳しい内容については、実習前に配付する『教育実習の手引き』を参照すること。

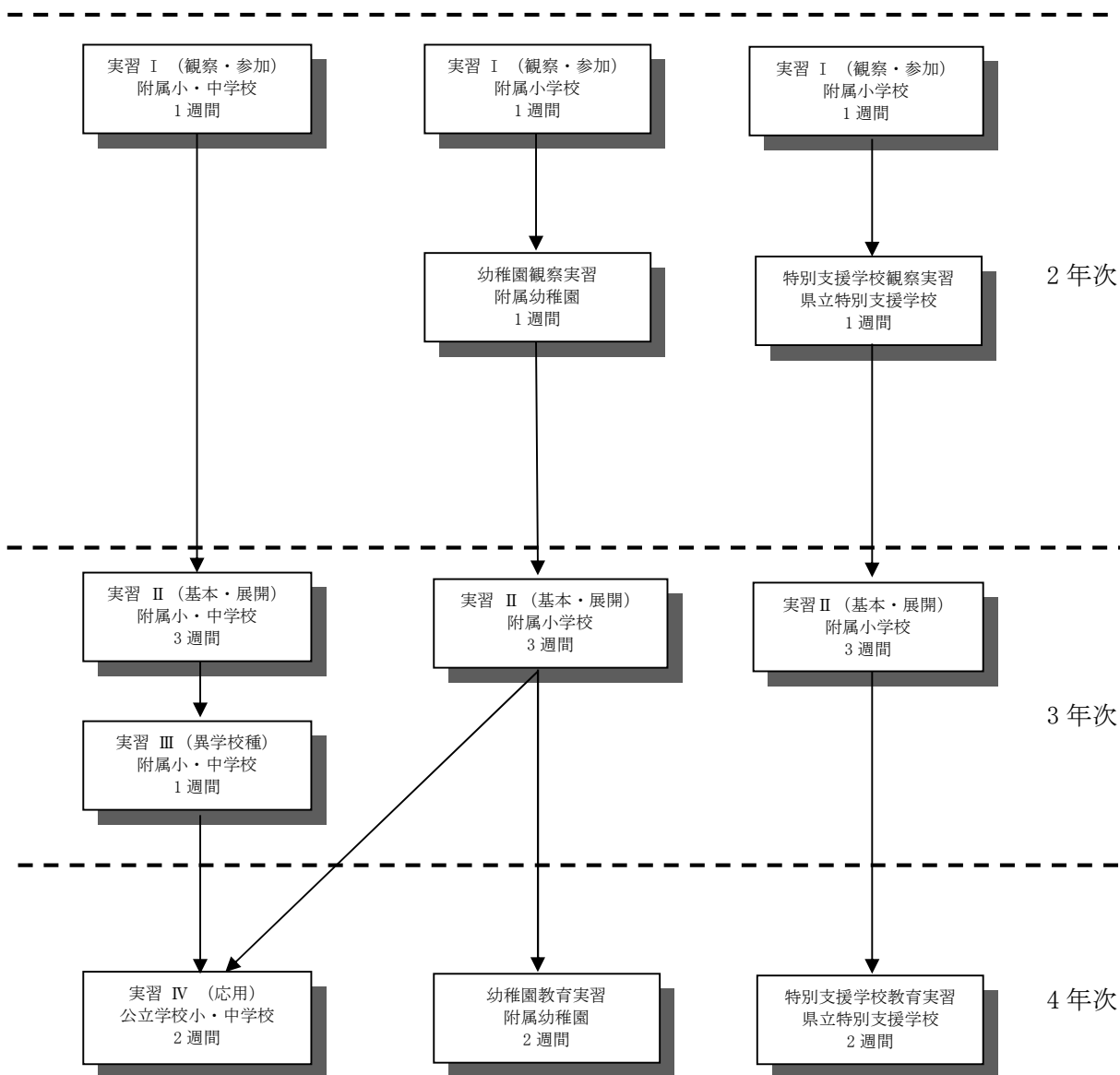
(2) 教育実習の実施年次

(年次)

小中一貫教育コース
教職実践基礎コース

発達支援教育コース
子ども理解専攻 特別支援教育専攻

1年次



(3) 教育実習の履修基準

各教育実習を履修する者は、以下の要件を満たさなければならない。

なお、下記の説明の「教育実習説明会」とは、4月の在学生オリエンテーションで実施される説明会を指し、「教育実習事前指導」とは大学教員による事前指導、附属学校や公立学校から招聘する外部講師による実地指導、および実習校で行われる事前指導（直前指導も含む）等を指す。

1. 実習Ⅰ

- (1) 履修前年度までに、「教職入門」の単位を修得している、あるいは「教職入門」の中で行われる、附属学校園教諭担当の「教員の職務内容とチーム学校運営への対応」4回のうち3回を受講していること。
- (2) 履修年度の前学期に行われる所定の教育実習説明会及び教育実習事前指導を受講していること。
- (3) 定期健康診断を受診していること。

2. 実習Ⅱ

- (1) 履修前年度までに、以下の要件を満たしていること。
 - ① 実習Ⅰが60点以上であること。
 - ② 所定の70単位を修得していること。
 - ③ 教育実習運営委員会が実施する教育実習に関する実地指導を受講していること。
 - ④ 小中一貫教育コース小学校主免専攻、教職実践基礎コース、発達支援教育コースの学生は、「初等国語科教育法Ⅰ」「算数科教育法Ⅰ」「初等社会科教育法Ⅰ」「図工科教育法Ⅰ」を履修し、それぞれ75%以上出席していること。
- (2) 履修年度の5月末時点において、以下の要件を満たしていること。
 - ① 小中一貫教育コース小学校主免専攻、教職実践基礎コース、発達支援教育コースの学生は、「初等理科教育法Ⅰ」「初等音楽科教育法Ⅰ」「体育科教育法Ⅰ」「初等家庭科教育法Ⅰ」「初等英語教育法Ⅰ」の欠席数がそれぞれ3回以下であること。
 - ② 小中一貫教育コース中学校主免専攻の学生は、各専修の「中等教科教育法Ⅰ」の欠席数が3回以下であること。
- (3) 履修年度の前学期に行われる所定の教育実習説明会及び教育実習事前指導を受講していること。
- (4) 定期健康診断を受診していること。

3. 実習Ⅲ

- (1) 履修年度までに、実習Ⅱを履修し、「教育実習基礎研究」の授業担当者が指定した授業（実習Ⅱの事後指導に相当する）を受講していること。
- (2) 定期健康診断を受診していること。

4. 実習Ⅳ

- (1) 実習Ⅱ及び実習Ⅲ（子ども理解専攻の場合は幼稚園観察実習）が60点以上であること。
- (2) 履修年度の前学期に行われる所定の教育実習説明会及び教育実習事前指導を受講していること。
- (3) 定期健康診断を受診していること。

5. 幼稚園観察実習

- (1) 実習Ⅰを履修していること。
- (2) 履修年度の前学期に行われる所定の教育実習事前指導を受講していること。
- (3) 定期健康診断を受診していること。

6. 幼稚園教育実習

- (1) 実習Ⅱが60点以上であること。
- (2) 幼稚園観察実習が60点以上であること。
- (3) 履修前年度までに、「教育実習基礎研究」の授業担当者が指定した授業（実習Ⅱの事後指導）を受講していること。
- (4) 履修年度の前学期に行われる所定の教育実習説明会及び教育実習事前指導を受講していること。
- (5) 定期健康診断を受診していること。

7. 特別支援学校観察実習

- (1) 実習Ⅰを履修していること。
- (2) 履修年度の前学期に行われる所定の教育実習事前指導を受講していること。
- (3) 定期健康診断を受診していること。

8. 特別支援学校教育実習

- (1) 実習Ⅱ及び特別支援学校観察実習が60点以上であること。
- (2) 履修前年度までに、分類1の「教科に関する専門事項」の科目を8単位以上修得していること。
- (3) 履修前年度までに、分類17の「障害児教育学総論」及び「障害児教育課程」の単位を修得していること。
- (4) 履修年度の前学期に行われる所定の教育実習説明会及び教育実習事前指導を受講していること。
- (5) 定期健康診断を受診していること。

※ 編入学、再入学等により本学部にて年次途中で入学してきた学生に対しては、上記要件を適用しない場合がある。

5. 免許状の追加取得について

「4. カリキュラムの構成」の「【3】 各コースにおける専攻の種類と取得する教育職員（教員）免許状」に定める卒業要件である教員免許状に加えて、他の教員免許状を追加取得しようとする場合、以下により取得すること。

ただし、教員免許状の追加取得は、様々な理由によりできないこともある。したがって自己の責任において、本頁や時間割等を確認し、追加取得に向けて履修の前に十分検討すること。

(1) 免許状取得の要領

- ① 自己の専攻の修得単位に、(2) 以下に説明する科目単位を追加修得すれば、それぞれの免許状が取得できる。ただし、科目単位の追加修得の際には、該当コース・教科の「★印のついた科目」を必ず履修し、さらに足りない分は「単位数に○のついた科目」から履修することが望ましい。本学部学校教育課程で課程認定を受けている中学校及び高等学校の免許教科は次のとおり。

中学校:国語・社会・数学・理科・音楽・美術・保健体育・技術・家庭・英語

高等学校:国語・地理歴史・公民・数学・理科・音楽・美術・保健体育・工業・家庭・英語

本学部学校教育課程で取得できる特別支援学校の免許の領域は、知的障害・肢体不自由・病弱の3領域。聴覚障害・視覚障害の領域については、取得できない。

- ② 特別支援学校教諭免許状の追加取得に関わる教育実習は、次の通り実施する予定である。この教育実習を履修する者は、「宮崎大学教育学部教育実習履修内規」に目を通すこと。

種別		単位	学年	期間
特別 学校 支援	特別支援学校観察実習	3	4	1週間
	特別支援学校教育実習			2週間

- ③ 単位取得については、下表が示すように教育職員免許法および同法施行規則に定める所定の科目単位を修得しなければならない。

第1欄		第2欄	第3欄	
所用資格	免許状の種類	基礎資格	大学において修得することを必要とする最低単位数	
			教科及び教職に関する科目	特別支援教育に関する科目
教諭 小学校	専修免許状	修士の学位を有すること。	83	
	1種免許状	学士の学位を有すること。	59	
	2種免許状	短期大学士の学位を有すること。	37	
教諭 中学校	専修免許状	修士の学位を有すること。	83	
	1種免許状	学士の学位を有すること。	59	
	2種免許状	短期大学士の学位を有すること。	35	
教諭 高等学校	専修免許状	修士の学位を有すること。	83	
	1種免許状	学士の学位を有すること。	59	
特別支援学校教諭	専修免許状	修士の学位を有すること及び小学校、中学校、高等学校又は幼稚園の教諭の普通免許状を有すること。		50
	1種免許状	学士の学位を有すること及び小学校、中学校、高等学校又は幼稚園の教諭の普通免許状を有すること。		26
	2種免許状	小学校、中学校、高等学校又は幼稚園の教諭の普通免許状を有すること。		16
教諭 幼稚園	専修免許状	修士の学位を有すること。	75	
	1種免許状	学士の学位を有すること。	51	
	2種免許状	短期大学士の学位を有すること。	31	

備考 第2欄の「修士の学位を有すること」には、大学（短期大学を除く。）の専攻科又は文部科学大臣の指定するこれに相当する課程に1年以上在学し、30単位以上修得した場合を含むものとする。

(2) 小学校教諭普通免許状追加取得の方法

(a)は免許法で定める単位数、(b)は卒業要件に含まれる必修の単位数(選択必修は除く)となっているため、(a)から(b)を引いた不足単位数を満たすように履修することが望ましい。

なお、卒業要件欄は「課程共通の必修科目 + 各専攻の必修科目」として単位数を表記している。

免許法施行規則に定める科目		最低修得単位数 (a)	本学部の授業科目	単位数	小中一貫教育コース 中主免専攻	
					卒業要件 (b)	残り 必要単位数 (a)-(b)
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	10	国語(書写を含む.) 社会 算数 理科 生活 音楽 図工 家庭 体育 小学校英語	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	+4	6
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	20	小学校10教科の教育法Ⅰ・Ⅱ	各2	+12	8
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念等	10	教育本質論	2	12	-
	教職の意義等		教職入門	2		
	教育に関する社会的事項等		教育制度論	2		
	心身の発達及び学習の過程		学校教育心理学	2		
	特別の支援等		特別支援教育入門	2		
	教育課程の意義等		教育課程論	2		
法道及徳、総合的な学習の指導、教育の相談等に関する科目	道徳の指導法	10	道徳教育論	2	11	-
	総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の指導法	1		
	特別活動の指導法		特別活動論	2		
	教育の方法及び技術		教育の方法と技術(情報通信技術の活用を含む。)	2		
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		生徒指導概論(進路指導を含む。)	2		
	生徒指導の理論及び方法		教育相談(カウンセリングの基礎的知識を含む。)	2		
	教育相談の理論及び方法					
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習基礎研究(幼小)	1	1	-
			教育実習	4	7	
	教職実践演習	2	教職実践演習(幼小中高)	2	2	-
に大設学が定める科目		2	介護体験 教育フィールド体験 人権同和教育	4	4	-

(3) 中学校教諭普通免許状追加取得の方法

(a)または(a')は免許法で定める単位数、(b)は卒業要件に含まれる必修の単位数(選択必修は除く)となっているため、(a)または(a')から(b)を引いた不足単位数を満たすように履修することが望ましい。
 なお、卒業要件欄は「課程共通の必修科目 + 各専攻の必修科目」として単位数を表記している。
 ※1種免許追加取得は専門科目表・分類3～分類12の該当教科で「★印を付した科目」に加えて、「単位数に○を付した科目」で補うことが望ましい。

免許法施行規則に定める科目			最低修得単位数		本学部の授業科目	単位数	小中一貫教育コース		教職実践基礎コース			発達支援教育コース					
							小主免許専攻					子ども理解専攻			特別支援教育専攻		
							卒業要件	1種残りの必要単位数	卒業要件	1種残りの必要単位数	2種残りの必要単位数	卒業要件	1種残りの必要単位数	2種残りの必要単位数	卒業要件	1種残りの必要単位数	2種残りの必要単位数
(b)	(a)-(b)	(b)	(a)-(b)	(a')-(b)	(b)	(a)-(b)	(a')-(b)	(b)	(a)-(b)	(a')-(b)							
指導法に関する専門的事項	教科に関する専門的事項	20★	10★	免許教科ごとの教科専門科目		+14	6	0	20	14	0	20	14	0	20	14	
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	8	2	免許教科ごとの教科教育法科目	8	+4	2	0	8	2	0	8	2	0	8	2	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念等	10	6	教育本質論	2	12	-	12+6	-	-	12+4	-	-	12	-	-	
	教職の意義等			教職入門	2												
	教育に関する社会的事項等			教育制度論	2												
	心身の発達及び学習の過程			学校教育心理学	2												
	特別の支援等			特別支援教育入門	2												
	教育課程の意義等			教育課程論	2												
道徳、総合的な学習の時間、特別活動、教育相談等に関する科目	道徳の指導法	10	6	道徳教育論	2	11	-	11+6	-	-	11+2	-	-	11	-	-	
	総合的な学習の時間の指導法			総合的な学習の時間の指導法	1												
	特別活動の指導法			特別活動論	2												
	教育の方法及び技術			教育の方法と技術(情報通信技術の活用を含む。)	2												
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法			生徒指導概論(進路指導を含む。)	2												
	生徒指導の理論及び方法			教育相談(カウンセリングの基礎的知識を含む。)	2												
教育実践に関する科目	教育実習	5	5	教育実習基礎研究(中高)	1	1	-	0	1	1	0	1	1	0	1	1	
	教育実習			教育実習 ^{※2}	4	7	-	7	-	-	4+3 または 6+1	-	-	4	-	-	
	教職実践演習			教職実践演習(幼小中高)	2	2	-	2	-	-	2	-	-	2	-	-	
に大設学が定める科目		4	4	介護体験	4	4	-	4	-	-	4	-	-	4	-	-	
				教育フィールド体験													
				人権同和教育													

注1: 教科に関する専門的事項の単位数は教育職員免許法施行規則第5条に従い、同条に定める全ての科目を網羅(本学部においては★印の科目を全て履修することが必要)して、20単位以上を修得する。

ただし、社会の教科に関する科目の中には、高校免許のみに利用する科目があるので、分類5の欄外の注意事項を良く読むこと。

注2: 教育実習の単位数は「小学校または中学校教育実習」が必要であるが、免許法施行規則第2条第1項 備考第11号を適用により、幼稚園の教育実習については3単位まで流用でき、欄上には「+単位数」と表示している。

(4) 高等学校教諭普通免許状追加取得の方法

(a)は免許法で定める単位数、(b)は卒業要件に含まれる必修の単位数(選択必修は除く)となっているため、(a)から(b)を引いた不足単位数を満たすように履修することが望ましい。

なお、卒業要件欄は「課程共通の必修科目 + 各専攻の必修科目」として単位数を表記している。

免許法施行規則に定める科目			本学部の授業科目	単位数	小中一貫教育コース				教職実践基礎コース		発達支援教育コース					
					小主免専攻		中主免専攻		卒業要件	残り必要単位	卒業要件	残り必要単位	子ども理解専攻		特別支援教育専攻	
					卒業要件	残り必要単位	卒業要件	残り必要単位					卒業要件	残り必要単位	卒業要件	残り必要単位
			(a)	(b)	(a)-(b)	(b)	(a)-(b)	(b)	(a)-(b)	(b)	(a)-(b)	(b)	(a)-(b)			
に科 関の 科 目 指 及 ぶ 指 導 法 科 法	教科に関する専門的事項	20 ^{★1}	免許教科ごとの教科専門科目		+14 ^{★2}	6	+30 ^{★2}	-	0	20	0	20	0	20		
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	4 ^{★3}	免許教科ごとの教科教育法科目	4	+4	-	+8	-	0	4	0	4	0	4		
教 育 の 基 礎 的 理 解 に 関 す る 科 目	教育の理念等	10	教育本質論	2	12	-	12	-	12+6	-	12+4	-	12	-		
	教職の意義等		教職入門	2												
	教育に関する社会的事項等		教育制度論	2												
	心身の発達及び学習の過程		学校教育心理学	2												
	特別の支援等		特別支援教育入門	2												
	教育課程の意義等		教育課程論	2												
	及道 び徳 生、 徒総 指合 導的 、な 教育 習相 談時 間等 指 導 法 科 法		総合的な探究の時間の指導法	8											総合的な学習の時間の指導法	1
特別活動の指導法	特別活動論	2														
教育の方法及び技術	教育の方法と技術(情報通信技術の活用を含む。)	2														
情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	生徒指導概論(進路指導を含む。)	2														
生徒指導の理論及び方法	教育相談(カウンセリングの基礎的知識を含む。)	2														
教育相談																
教 育 の 実 践 目 的 に 関 す る 科 目	教育実習	3	教育実習基礎研究(中高)	1	1	-	1	-	0	1	0	1	0	1		
			教育実習 ^{注4}	2	1+2	-	6+1	-	0+2	-	0+2	-	0+2	-		
	教職実践演習	2	教職実践演習(幼小中高)	2	2	-	2	-	2	-	2	-	2	-		
に大 設学 が 定 す る 自 立 自 主 的 に 履 修 す る 科 目		12	介護体験	12	4	8 ^{★5}	4	8 ^{★5}	4	8 ^{★5}	4	8 ^{★5}	4	8 ^{★5}		
			教育フィールド体験													
			人権同和教育													

注1: 教科に関する専門的事項の単位は教育職員免許法施行規則第5条に従い、同条に定める全ての科目を網羅(本学部においては★印の科目を全て履修することが必要)して、20単位以上を修得する。

ただし、高校免許に利用できる科目は教科によって異なる場合があるので、教務・学生支援係で確認すること。

注2: 卒業所要単位として修得する教科専門科目のうち、高校免許に利用できる科目は教科によって異なる場合があるので、教務・学生支援係で確認すること。

注3: 本学部において免許教科の教育法Ⅱ及び教育法Ⅲを修得する必要がある。教育法Ⅰ及び教育法基礎は「大学が独自に設定する科目」に充てることができる。

ただし、地理歴史は、「中等社会科教育法Ⅲ」・「地理歴史科教育法」、公民は、「中等社会科教育法Ⅱ」・「公民科教育法」、工業は、「工業科教育法」を修得する必要がある、左記以外の科目は該当しない。

注4: 教育実習の単位は「中学校教育実習」が必要であるが、免許法施行規則第5条第1項 備考第4号を適用により、幼稚園または小学校の教育実習については2単位まで流用でき、欄上には「+単位数」と表示している。

注5: 不足する単位数を満たすには、分類18「大学独自に設定する科目」の選択科目の修得単位が該当する。

または「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の最低修得単位数(a)を超えて修得した単位をもって、この欄の単位数に替えることができる。

ただし、いずれの場合も取得しようとする免許種と関連のない科目については認められないことがあるので教務・学生支援係で確認すること。

(5) 特別支援学校教諭普通免許状(知的障害・肢体不自由・病弱)追加取得の方法

特別支援学校教諭普通免許状(知的障害・肢体不自由・病弱)を取得するには、基礎資格として、小学校・中学校・高等学校および幼稚園のいずれかの普通免許状を有し、さらに下表の科目単位を修得しなければならない。

免許法施行規則に定める科目	本学部の授業科目	単位数	最低修得単位数		
			1種 ^{注1}	2種 ^{注2}	
特別支援教育に関する科目	特別支援教育の基礎理論に関する科目	障害児教育学総論	②	2	2
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	知的障害者の心理・生理・病理 「知的障害」	②	1 以上	1 以上
		肢体不自由者の心理・生理・病理 「肢体不自由」	②		
		病弱者の心理・生理・病理 「病弱」	②		
	特別支援教育領域に関する科目	障害児教育課程 「知的障害」	②	2 以上	1 以上
		知的障害児教育 「知的障害」	2		
		特別支援学級経営 「知的障害」	2		
		肢体不自由児教育 「肢体不自由」	②		
		病弱児教育 「病弱」	②		
	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	発達障害教育総論	2	5
重複障害児教育			2		
視覚障害教育総論			①		
聴覚障害教育総論			①		
心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習	特別支援学校観察実習 ^{注3}	③	3	3	
	特別支援学校教育実習 ^{注4}				

注1: 1種免許状を追加取得する場合、表に示したすべての授業科目の単位を修得しなければならない。

注2: 2種免許状を追加取得する場合、免許法施行規則に定める「領域」を遺漏なく履修するためには、この表の単位に○を付した授業科目の単位を必ず修得しなければならない。

注3: 「特別支援学校観察実習(追加免許)」の単位は、4年次に修得する。受講科目登録は4年次前学期に行う。

注4: 「特別支援学校教育実習(追加免許)」の単位は、4年次に修得する。受講科目登録は4年次前学期に行う。

(6) 幼稚園教諭普通免許状追加取得の方法

(a)または(a')は免許法で定める単位数、(b)は卒業要件に含まれる必修の単位数(選択必修は除く)となっているため、(a)または(a')から(b)を引いた不足単位数を満たすように履修することが望ましい。

なお、卒業要件欄は「課程共通の必修科目 + 各専攻の必修科目」として単位数を表記している。

免許法施行規則に定める科目			本学部の授業科目	単位数	小中一貫教育コース			教職実践基礎コース			発達支援教育コース			
領域及び保育内容の指導法に関する科目	最低修得単位数				小主免専攻・中主免専攻			特別支援教育専攻						
	1種	2種			卒業要件	1種残りの必要単位数	2種残りの必要単位数	卒業要件	1種残りの必要単位数	2種残りの必要単位数	卒業要件	1種残りの必要単位数	2種残りの必要単位数	
	(a)	(a')	(b)	(a)-(b)	(a')-(b)	(b)	(a)-(b)	(a')-(b)	(b)	(a)-(b)	(a')-(b)			
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	10	8	幼児と健康	2									
				幼児と人間関係	2									
				幼児と環境	2	0	10	8	0	10	8	0	10	8
				幼児と言葉	2									
				幼児と表現	2									
	保育内容の指導法	6	4	保育内容総論	2									
				保育内容の指導法	4	0	3	2	0	3	2	0	3	2
	小学校の各教科の指導法 ^{注1}	6	4	初等国語科教育法Ⅰ・Ⅱ	2									
				算数科教育法Ⅰ・Ⅱ	2									
				初等音楽科教育法Ⅰ・Ⅱ	2	1種は3単位				1種は3単位			1種は3単位	
図工科教育法Ⅰ・Ⅱ				2										
体育科教育法Ⅰ・Ⅱ				2	2種は2単位				2種は2単位			2種は2単位		
特別活動論の指導法 ^{注1}			特別活動論	2										
教育の基礎的理解に関する科目	10	6	教育の理念等	2										
			教職の意義等	2										
			教育に関する社会的事項等	2										
			心身の発達及び学習の過程	2	12	-	-	12+6	-	-	12	-	-	
			特別の支援等	2										
			教育課程の意義等	2										
等指指学道に導導習徳関、法の、す教及時総る育び関合科相生等的目談徒のな	4	4	教育相談の理論及び方法	2	2	-	-	2+5	-	-	2	-	-	
			情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	2										
			幼児理解の理論及び方法	2	0	2	2	0	2	2	0	2	2	
教育実科目に関する科目	5	5	教育実習基礎研究(幼小)	1	1	-	-	1	-	-	1	-	-	
			教育実習	4	小主免6+1 中主免1+3				6	-	-	4	-	-
			教職実践演習	2	2	-	-	2	-	-	2	-	-	
に大設学定がす独る目	14	2	介護体験	4	4	8 ^{注2-1}	-	4	8 ^{注2-2}	-	4	8 ^{注2-1}	-	
			教育フィールド体験	4										
			人権同和教育	4										

注1: 保育内容の指導法に関する科目の単位の半数(1種・2種どちらも2単位)までを「小学校各教科の指導法(社会、理科、家庭、英語を除く)」または「特別活動論」の単位をもって替えることができる。

注2-1: 不足する単位数を満たすには、分類18「大学独自に設定する科目」の選択科目の修得単位が該当する。または「領域及び保育内容の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目」、「教育実践に関する科目」の最低修得単位数(a)を超えて修得した単位をもって、この欄の単位数に替えることができる。

注2-2: 教職実践基礎コース必修科目の「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目」の最低修得単位数(a)を超えて修得した単位(4+1)をもって、この欄の単位数に替えることができる。つまり、大学が独自に設定する科目の最低修得単位数を満たすことができる。

ただし、いずれの場合も取得しようとする免許種と関連のない科目については認められないことがあるので教務・学生支援係で確認すること。

6. 教員免許以外の資格及び単位修得について

【1】 学校図書館司書教諭の資格取得について

【2】 学芸員資格の取得について

【3】 宮崎大学 SPARC 未来共創教育プログラムについて

【1】～【3】の詳細については、宮崎大学教育学部WEBサイトを参照。

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/edu/student/attend.html>



【4】履修プログラムのカリキュラム構成について

現代の教育課題を深く学ぶカリキュラムとして、本学部では2つの履修プログラムを設けています。それぞれのプログラムにおいて、各表から認定に必要な単位を修得することで、履修証明書を発行します。なお、卒業に必要な単位修得とは異なる場合がありますので、各コース・専攻の履修基準を確認してください。

(1) 履修プログラム「ICT 活用および数理データサイエンス教育」

1人1台端末の整備に伴う教科等の指導場面を具体的に想定し、高いICT活用指導力を有する教員を輩出。

履修プログラム「ICT 活用および数理データサイエンス教育」は、表1で示すと「教育の方法と技術(情報通信技術の活用を含む)」と「ICT 活用教育」を含む合計8単位以上を修得することで、「履修証明書」を発行する。今後選択科目を増やす予定。

表1

科目	科目概要	開設時期 便覧科目区分 A	単位数	必要 単位数
ICT活用教育	個別最適な学びや協働的な学びを支援する効果的なICT活用方法について学ぶ。また、教育における情報メディアについて、利用の変遷、認知、学習効果、思考との関連を多面的に考察する。	2年前期 教職実践基礎 専攻専門科目	2	2
教育の方法と技術(情報通信技術の活用を含む。)	授業を設計・展開する上で有用となる各種メディアや情報通信技術について理解する。また、クラウド環境でのICT機器の操作及び教材コンテンツの利活用を通して、デジタル学習基盤を活かした教育の方法や学習支援の方法について実践的に習得する。	2年後期 小学校教育または中学校教育専門科目	2	2
コンピュータ概論	情報化の進展にともなうコンピュータの普及、情報の表現、コンピュータやネットワークの仕組みについて理解した後、中学校数学の内容と関連付けながら、アルゴリズム、プログラミング、数学関連ソフトウェアの活用法を実践的に学修する。	2年前期 小中一貫教育 コース(数学科) 専門科目	2	4
プログラミング教育	プログラミング教育に関わる実践的な指導力を身に付けることを目指す。学校教育におけるプログラミング教育の動向を理解した上で、ビジュアル・プログラミングに加え、ロボットなどのフィジカル・プログラミングのシミュレーションなどを体験し、授業構想力を高める。	3年前期 課程共通 選択科目	2	
STEAM教育	複数の領域を横断しながら課題を発見・分析し、実現可能な課題解決の提案を構想する能力の習得を目指す。その際、学校におけるICT活用に関する管理・運営業務や、支援業務を担う能力の習得も目指す。	4年後期 課程共通 選択科目	2	

(2)履修プログラム「小・中学校における特別支援教育」のカリキュラム構成

小・中学校で特にニーズの高い特別支援教育を担うことができる専門性を有した教員を輩出。

履修プログラム「小・中学校における特別支援教育」は、表2で示す「特別支援教育入門」と「小・中学校における特別支援教育演習」を含む合計8単位以上を修得することで、「履修証明書」を発行する。

表2

科目	科目概要	開設時期 便覧科目区分 A	単位数	必要 単位数
特別支援教育入門	通常の学級にも在籍している限局性学習症及び注意欠如・多動症、自閉スペクトラム症等の発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等及び母国語や貧困の問題等により特別の支援を必要とする幼児・児童・生徒が示すさまざまな困難の解決及び学校適応の促進のために、特別支援教育の考え方と教育課程、特別支援教育の体制整備と関係機関との連携、発達障害等の幼児・児童・生徒の特徴と教育的支援の方法について講義。	2年前期※ 教養教育科目 (専門接続系) ※特別支援教育 専攻の学生は 1年前期	2	2
小中学校における特別支援教育演習	小中学校において特別支援教育を必要とする児童生徒を指導・支援するうえで臨床心理学を学ぶことの意義とその活用法を学ぶ。学校教員が臨床心理学の先行研究とその科学性・実証性を理解することは、小中学校における特別支援教育で求められる問題解決思考に直結した、重要な能力である。また、特別な支援の必要な児童生徒を含めた学級経営を行える実践力も重要となる。これらの能力を習得し、実践できることを視野にいれた学習を行う。	4年後期 発達支援教育 コース子ども理解専 攻専門科目	2	2
子どもの発達と教育支援	幼児期から学齢期までの子どもの発達の特徴や各発達段階における課題やつまずきに対する教育支援について概説し、具体的な教育支援の取り組みを紹介。また、障害の有無によらず全ての子どもが共に学ぶインクルーシブ教育を推進する体制や制度、配慮事項について説明する。さらに、障害などによって発達に顕著な遅れ・偏りがみられる子どもの早期発見や教育支援・家族支援について概説し、具体的な教育支援の取り組みを紹介。	1年後期 発達支援教育 コース科目	2	4
学校教育の臨床心理学	通常の学級にも在籍している限局性学習症及び注意欠如・多動症、自閉スペクトラム症等の発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等及び母国語や貧困の問題等により特別の支援を必要とする幼児・児童・生徒が示すさまざまな困難の解決及び学校適応の促進のために、特別支援教育の考え方と教育課程、特別支援教育の体制整備と関係機関との連携、発達障害等の幼児・児童・生徒の特徴と教育的支援の方法について講義。	2年前期 発達支援教育 コース子ども理解専 攻専門科目	2	
通常の学級における特別支援教育	障害のある子どもや特別な教育的支援を必要とする子どもが通常の学級に在籍して学ぶことについて、個別の指導計画、基礎的環境整備、合理的配慮、授業内容や指導・支援方法といった多面的な視点から議論。また、交流及び共同学習の意義、効果的な実践に必要な諸条件について考え、指導計画を具体的に検討。	2年後期 課程共通 選択科目	2	
小中学校における特別支援教育のアセスメント	小中学校において特別な支援を必要とする児童生徒の心理的側面を把握する心理アセスメントについて、質問紙法、面接法、観察法を用いた具体的なツールの概要を知り、その実施、結果の整理と解釈ができるようになる。特に、児童生徒の発達特性(自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、学習障害等)、情緒的側面(不安、うつ等)、学校組織風土(学校経営、学級経営、教職スキル等)を把握する手法を学ぶ。	3年前期 発達支援教育 コース子ども理解専 攻専門科目	2	

7. 学生に関する教育学部細則等について

【1】宮崎大学教育学部専門教育科目の受講及び試験に関する細則

【2】成績評価申し立て

【3】卒業期特別試験に関する申合せ

【4】教育実習履修内規

【5】転学部選考内規

【6】転学部申合せ

【7】転専攻等選考内規

【8】転専攻等申し合わせ

【1】～【8】の詳細については、宮崎大学教育学部WEBサイトを参照。

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/edu/student/attend.html>



8. 教 職 員 名 簿

学部長 戸ヶ崎 泰子

学外からの電話:0985-58-(内線番号)

小中一貫教育コース

【国語専修担当】

専 門 分 野	職名	氏 名	部屋番号	内線番号
国 語 科 教 育	准教授	中野 登志美	436	7435
国 語 科 教 育	准教授	李 軍	440	7466
国 語 学	教 授	塚本 泰造	434	7433
国 文 学	教 授	中村 佳文	439	7465
漢 文 学・書 道	教 授	山元 宣宏	435	7434

【社会専修担当】

専 門 分 野	職名	氏 名	部屋番号	内線番号
社 会 科 教 育	教 授	吉村 功太郎	530	7490
社 会 科 教 育	准教授	藤本 将人	531	7567
歴 史 学	教 授	中堀 博司	541	7472
歴 史 学	講 師	相馬 和将	540	7471
地 理 学	教 授	大平 明夫	537	7475
政 治 学	准教授	松尾 隆佑	529	7491
経 済 学	准教授	植木 洋	539	7479
哲 学	教 授	柏葉 武秀	534	7469

【数学専修担当】

専 門 分 野	職名	氏 名	部屋番号	内線番号
数 学 教 育	教 授	添田 佳伸	611	7514
数 学 教 育	教 授	木根 主税	608	7513
代 数 学	准教授	山口 尚哉	625	7497
幾 何 学	准教授	向江 頼士	629	7494
解 析 学	准教授	平山 浩之	623	7496
応 用 数 学	未定	未定	未定	未定

【理科専修担当】

専 門 分 野	職名	氏 名	部屋番号	内線番号
理 科 教 育	教 授	野添 生	513	7504
理 科 教 育	講 師	中村 大輝	515	5330
理 科 教 育	未定	未定	未定	未定
物 理 学	准教授	下村 崇	601	7505
化 学	教 授	有井 秀和	604	7499
生 物 学	教 授	西田 伸	503	7518
地 学	講 師	隈 隆成	505	7517

【音楽専修担当】

専門分野	職名	氏名	部屋番号	内線番号
音楽科教育	教授	菅 裕	M127	7521
音楽科教育	准教授	酒井 勇也	M130	7522
声 楽	教授	藤本 いく代	M129	7523
器 楽	教授	阪本 幹子	M126	7520
指揮・作曲	准教授	浦 雄一	M218	7526

【美術専修担当】

専門分野	職名	氏名	部屋番号	内線番号
美術科教育	教授	幸 秀樹	F109	7535
美術科教育	准教授	樺島 優子	F204	7537
絵 画	准教授	大泉 佳広	F201	7534
彫刻(塑)	教授	大野 匠	F106	7531
美術理論・美術史	准教授	松下 久子	F110	7533

【保健体育専修担当】

専門分野	職名	氏名	部屋番号	内線番号
保健体育科教育	教授	日高 正博	231	7557
保健体育科教育	准教授	佐々 敬政	233	7554
運動学	講師	井関 実紀	237	7561
生理学・学校保健学	准教授	塩瀬 圭佑	124	7558
体育学	准教授	宇土 昌志	235	7559
体育学	准教授	志々目 由理江	236	7560

【技術専修担当】

専門分野	職名	氏名	部屋番号	内線番号
材料学	未定	未定	未定	未定
電気・技術科教育	教授	湯地 敏史	T111	7552

【家庭専修担当】

専門分野	職名	氏名	部屋番号	内線番号
家庭科教育	教授	伊波 富久美	T203	7539
食物学・家庭科教育	講師	瀧元 有理	T205	7541
被服学	講師	藤本 明弘	T204	7540

【英語専修担当】

専門分野	職名	氏名	部屋番号	内線番号
英語科教育	准教授	興津 紀子	334	7443
英語科教育	講師	早瀬 沙織	332	7441
英語学	准教授	本多 正敏	338	7447
英語文学	教授	井崎 浩	335	7444
英語文学	教授	新名 桂子	336	7445
英語コミュニケーション	講師	ダニエル・コーツ	333	7442

教職実践基礎コース

【教職実践基礎専攻担当】

専門分野	職名	氏名	部屋番号	内線番号
教育学・教育史	講師	深見 奨平	632	7487
教育制度論	教授	湯田 拓史	631	7486
教育社会学	准教授	盛満 弥生	633	7488
道徳教育論	教授	椋木 香子	634	7489
教育方法学	准教授	遠藤 宏美	630	7485
教育方法学	准教授	竹内 元	C202	7432
教育工学	教授	新地 辰朗	536	7498
教育工学・教師教育	教授	小林 博典	C201	7431

発達支援教育コース

【子ども理解専攻担当】

専門分野	職名	氏名	部屋番号	内線番号
発達心理学	未定	未定	未定	未定
教育心理学	教授	立元 真	705	7461
教育心理学	准教授	尾之上 高哉	706	7460
臨床心理学	教授	境 泉洋	704	7458

【特別支援教育専攻担当】

専門分野	職名	氏名	部屋番号	内線番号
障害児教育学	教授	若林 上総	719	7464
障害児生理学	講師	尾崎 充希	718	7463
障害児心理学	教授	戸ヶ崎 泰子	732	7795

附属教育協働開発センター

役職等	職名	氏名	部屋番号	内線番号
センター長	教授	幸 秀樹	F109	7535
部門長	准教授	竹内 元	C202	7432
部門長	教授	小林 博典	C201	7431
	特別教授	永倉 英了	427	7564

教務・学生支援係

事項	内線番号
履修・成績に関すること	2891
特別欠席に関すること	7771
教育実習に関すること	7771
教員免許に関すること	2891
教職就職に関すること	2890

